

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第334集

北埼玉郡北川辺町

飯 積 遺 跡 Ⅱ

大高島地区河川防災ステーション整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告
(本文編)

2 0 0 7

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 遺跡遠景（南から 手前に利根川、中央左に旧合の川跡）



2 遺跡遠景（調査区左から中央に旧合の川跡）



1 調査区全景（東から）



2 調査区全景（南東から）



1 第3・4次調査区全景（右下は第2次調査区）



1 第111号住居跡カマド



2 第111号住居跡カマド (断面)



1 第251号住居跡出土土器



2 第260号住居跡出土土器



1 第139号住居跡出土土器



2 流路跡 D 地点出土土器

序

埼玉県は、県民ニーズの多様化や社会経済状況の変化に対応し、誰もが豊かさを実感できる埼玉県を実現するため、「安全で安心して生活できる県土づくり」を基本理念として、河川改修・砂防施設の整備を推進しています。また、国土交通省では、河川の洪水氾濫等による災害から貴重な生命、財産を守り、安心して暮らせるよう、浸透・越水に対して高い安全性を有する高規格堤防を整備しています。

北川辺町は、埼玉県の北東端に位置し、群馬、栃木、茨城の3県と接しており、古くから利根川や渡良瀬川などの洪水に悩まされてきました。町の四方を巡る堤防や町内に残る水塚^{みづか}の存在は、水害の歴史を物語っていると言えます。

大高島地区河川防災ステーションは、利根川上流区域から渡良瀬川合流点における氾濫等の災害に対して、迅速に対応するための拠点として、平成16年度から整備事業が行われております。

この事業地内は、かねてから飯積遺跡の存在が知られていました。整備に当たり、事業地内の遺跡の取扱いについては、関係諸機関が慎重に協議を重ねましたが、やむを得ず、記録保存の処置を講ずることとなりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）の調整により、当事業団が国土交通省関東地方整備局の委託を受けて実施いたしました。

発掘調査の結果、古墳時代の流路跡、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世末期の溝跡や井戸跡などの遺構が、多数折り重なるように発見されました。とくに古墳時代には、洪水によって埋まった流路跡に集落がつくられたことや、周辺地域の土器が多数出土することがわかりました。この頃から人々は、河川と密接に関わり、また他地域と活発な交流をしていたことがうかがえます。

本書はこれらの発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用していただければ幸いです。

本報告書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、北川辺町教育委員会並びに地元関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 福田陽充

例 言

- 1 本書は、北埼玉郡北川辺町大字飯積に所在する飯積遺跡第3・4次調査の発掘調査報告書である。
なお、第2次調査については第333集「飯積遺跡Ⅰ」を参照されたい。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
飯積遺跡第3次（IIZM3）
埼玉県北埼玉郡北川辺町大字飯積字本村191-2番地
平成16年4月14日付け 教文第2-7号
飯積遺跡第4次（IIZM3）
埼玉県北埼玉郡北川辺町大字飯積字本村191-2番地
平成17年5月17日付け 教生文第2-12号
- 3 発掘調査は、大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。調査は埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 発掘調査事業は、I-3の組織により実施した。第3次調査は、平成16年4月8日から平成17年3月31日まで、第4次調査は平成17年4月8日から平成17年9月30日まで実施した。調査は、第3次調査を田中広明、加藤隆則が、第4次調査は坂野和信、鈴木孝之、田中、山本靖、清水慎也が担当した。
整理・報告書作成事業は第2次調査、第3次調査・第4次調査を同時に、平成17年度（平成17年4月8日から平成18年3月31日）と平成18年度（平成18年4月10日から平成19年3月31日）の2ヵ年実施した。担当は以下のとおりである。
劔持和夫（平成18年7月から平成18年8月）
鈴木孝之（平成18年4月から平成18年9月）
岩瀬 譲（平成18年4月から平成19年3月）
加藤隆則（平成17年4月から平成18年3月）
（平成18年9月から平成19年3月）
清水慎也（平成18年4月から平成18年6月）
- 5 遺跡の基準点測量は朝日航洋株式会社に、空中写真は中央航業株式会社に委託した。
- 6 発掘調査時の写真撮影は発掘担当者が行い、遺物の写真撮影は大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版作成は劔持、鈴木、岩瀬、加藤、清水が行い、西井幸雄、瀧瀬芳之の協力、吉田美子、成田友紀子、兵ゆり子、山北美穂の補助を受けた。
- 8 本書の執筆は、I-1は埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、I-2・3、III-1・2は岩瀬、II、III-3、IV-2~5・7・8、V-1・2は加藤、V-3は田中、IV-6は劔持・加藤、IV-1は鈴木、加藤が協議の上行った。
- 9 本書の編集は鈴木、加藤が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成19年4月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。
- 11 本書の作成にあたり下記の方々・機関から御教示・御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表します。（敬称略）
北川辺町教育委員会 埼葛地区文化財担当社会
池尻 篤 今井秀行 江田美喜子 柿沼幸治
小堀 悟 高村敏則 田口直人 立川明浩
津野 仁 藤野一之 宮田裕紀枝

凡例

- 1 本書におけるX・Yの数値は、世界測地系（新測地系）による平面直角座標第Ⅸ系（原点：北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示し、各挿図内における方位はすべて座標北を示している。
- 2 遺跡におけるグリッドは、前記座標系に基づいて設置し、10m×10mを基本グリッドとしている。
- 3 グリッドの名称は北西杭を基準とし、東西方向が西から東へ1、2、3…、南北方向は北から南へA、B、C…とした。呼称は、南北-東西の順となっている。（例 K-8グリッド）
- 4 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。

S J	住居跡	S K	土坑
S E	井戸跡	S D	溝跡
- 5 本書における挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構図

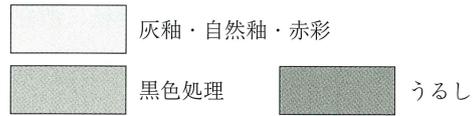
全体図	1 : 500	1 : 600	
住居跡・土坑・井戸跡	1 : 30	1 : 60	
溝跡	1 : 60	1 : 250	
方形区画・神社跡	1 : 60	1 : 100	1 : 300
流路跡	1 : 30	1 : 60	

遺物実測図

土器・石製品	1 : 4
紡錘車・鉄滓	1 : 3
金属製品・石製模造品・ミニチュア土器・土玉・土錘・貝巢穴痕泥岩	1 : 2
勾玉・白玉・管玉・古銭	1 : 1

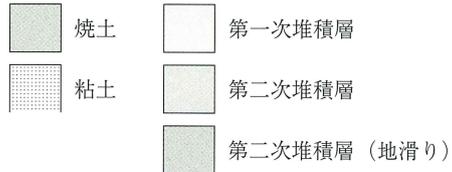
その他、遺物出土状況図、遺跡位置図、周辺地形図、遺跡全体図等は個別に縮尺率を設定した。

- 6 遺物のうち、須恵器は断面を黒塗りにした。また遺物図版中の網掛けは、以下のとおりである。



- 7 遺構断面図等に表記した水準数値は、海拔標高を示す。

- 8 遺構図中の網掛けは、以下のとおりである。



- 9 遺物観察表については次のとおりである。

- ・口径・器高・底径はcm、重さはgを単位とする。

- ・（ ）内の数値は復元推定値を示す。

- ・タイプは土器の主たる産地を示した。灰釉陶器・須恵器は産地・窯跡を示す。また土師器は以下のとおりに記載した。

埼玉北部 埼玉南部 埼玉東部 埼玉東部 比企：埼玉比企 群馬東部 栃東：栃木東部 栃南：栃木南部 栃西：栃木西部 佐野：栃木佐野 茨西：茨城西部 新治：茨城新治 常陸：常陸 下総：下総 下南：下総南部 下西：下総西部 東北：東北地方

- ・胎土は肉眼で観察できるもののみを示した。

雲：雲母 片：片岩 角：角閃石

軽：軽石 針：白色針状物質

- ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。

- ・残存率は、土器全体を想定した割合を示した。

- 10 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図、北川辺町都市計画図1/2,500を使用した。

- 11 土層および土器類の色調の表記は『新版標準土色帖』2002年度版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に従った。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次

(本文編)

I 発掘調査の概要……………	1	2. 土坑……………	295
1. 発掘調査に至る経過……………	1	3. 井戸跡……………	304
2. 発掘調査・報告書作成の経過……………	2	4. 溝跡……………	307
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織……………	3	5. ピット……………	313
II 遺跡の立地と環境……………	4	6. 方形区画……………	318
1. 地理的環境……………	4	7. 流路跡……………	325
2. 歴史的環境……………	6	8. グリッド・表採遺物……………	384
III 遺跡の概要……………	15	V 結語……………	395
1. 調査の方法……………	15	1. 遺構と遺物の出土状況……………	395
2. 基本層序……………	15	2. 自然堤防と集落……………	406
3. 遺跡の概要……………	16	3. 飯積遺跡の出土土器と周辺地域……………	424
IV 検出された遺構と遺物……………	29	(写真図版編)	
1. 竪穴住居跡……………	29	写真図版	

挿図目次

第1図	埼玉県の地形	4	第36図	第104号住居跡出土遺物	42
第2図	飯積遺跡周辺図	5	第37図	第105号住居跡出土遺物	43
第3図	飯積遺跡周辺の地形	6	第38図	第106号住居跡	43
第4図	遺跡分布図（旧石器～弥生）	9	第39図	第106号住居跡出土遺物	43
第5図	遺跡分布図（古墳～中・近世）	12・13	第40図	第107号住居跡	44
第6図	基本土層図	15	第41図	第107号住居跡出土遺物	45
第7図	遺跡の範囲	16	第42図	第108・120号住居跡	47
第8図	調査区全体図	17	第43図	第108号住居跡出土遺物	48
第9図	調査区と鷲神社	20	第44図	第109号住居跡	50
第10図	グリッド配置図	21	第45図	第109号住居跡出土遺物	51
第11図	全体図①	22	第46図	第110号住居跡	54
第12図	全体図②	23	第47図	第110号住居跡出土遺物	55
第13図	全体図③	24	第48図	第111号住居跡	56
第14図	全体図④	25	第49図	第111号住居跡カマド	57
第15図	全体図⑤	26	第50図	第111号住居跡出土遺物（1）	59
第16図	全体図⑥	27	第51図	第111号住居跡出土遺物（2）	60
第17図	第3・4次調査区全体図	28	第52図	第112号住居跡	62
第18図	第93号住居跡	30	第53図	第112号住居跡カマド	63
第19図	第93号住居跡出土遺物	31	第54図	第112号住居跡出土遺物（1）	64
第20図	第94号住居跡	32	第55図	第112号住居跡出土遺物（2）	65
第21図	第94号住居跡出土遺物	32	第56図	第113号住居跡	66
第22図	第95号住居跡	33	第57図	第113号住居跡出土遺物（1）	68
第23図	第95号住居跡出土遺物	33	第58図	第113号住居跡出土遺物（2）	69
第24図	第96号住居跡	34	第59図	第114号住居跡	70
第25図	第96号住居跡出土遺物	34	第60図	第114号住居跡出土遺物	70
第26図	第97号住居跡	35	第61図	第115号住居跡	71
第27図	第97号住居跡出土遺物	36	第62図	第115号住居跡出土遺物	72
第28図	第98号住居跡	37	第63図	第116号住居跡	73
第29図	第98号住居跡出土遺物	37	第64図	第116号住居跡出土遺物	74
第30図	第101号住居跡	38	第65図	第117号住居跡	75
第31図	第101号住居跡出土遺物	39	第66図	第117号住居跡出土遺物	75
第32図	第102号住居跡出土遺物	39	第67図	第118号住居跡	76
第33図	第102・105号住居跡	40	第68図	第118号住居跡出土遺物	77
第34図	第103号住居跡	41	第69図	第119号住居跡	79
第35図	第104号住居跡	42	第70図	第119号住居跡出土遺物	79

第71図	第120号住居跡出土遺物	80	第108図	第139号住居跡出土遺物 (3)	112
第72図	第121号住居跡	80	第109図	第141・155号住居跡	114
第73図	第122号住居跡	81	第110図	第141号住居跡カマド	115
第74図	第122号住居跡出土遺物	81	第111図	第141号住居跡出土遺物 (1)	116
第75図	第123・124号住居跡	82	第112図	第141号住居跡出土遺物 (2)	117
第76図	第124号住居跡出土遺物	83	第113図	第142号住居跡	119
第77図	第125号住居跡	84	第114図	第143号住居跡	120
第78図	第125号住居跡出土遺物	84	第115図	第143号住居跡出土遺物	121
第79図	第126号住居跡	85	第116図	第144号住居跡	122
第80図	第126号住居跡出土遺物	86	第117図	第144号住居跡出土遺物	122
第81図	第127号住居跡	86	第118図	第145号住居跡	123
第82図	第127号住居跡出土遺物	87	第119図	第146号住居跡	124
第83図	第129号住居跡	88	第120図	第146号住居跡出土遺物	125
第84図	第129号住居跡出土遺物	89	第121図	第147号住居跡	126
第85図	第130号住居跡	90	第122図	第147号住居跡出土遺物	127
第86図	第130号住居跡出土遺物	91	第123図	第148号住居跡	128
第87図	第131号住居跡	93	第124図	第148号住居跡出土遺物	129
第88図	第131号住居跡出土遺物	94	第125図	第149号住居跡	130
第89図	第132・273号住居跡	95	第126図	第149号住居跡出土遺物	131
第90図	第132号住居跡出土遺物	95	第127図	第150号住居跡	132
第91図	第133号住居跡 (1)	96	第128図	第150号住居跡出土遺物	132
第92図	第133号住居跡 (2)	97	第129図	第151号住居跡	133
第93図	第133号住居跡出土遺物	98	第130図	第151号住居跡出土遺物	134
第94図	第134号住居跡	100	第131図	第152号住居跡	135
第95図	第134号住居跡出土遺物	100	第132図	第152号住居跡出土遺物	136
第96図	第135号住居跡 (1)	101	第133図	第153号住居跡	137
第97図	第135号住居跡 (2)	102	第134図	第153号住居跡出土遺物	138
第98図	第135号住居跡カマド	103	第135図	第154号住居跡	139
第99図	第135号住居跡出土遺物 (1)	104	第136図	第154号住居跡出土遺物	139
第100図	第135号住居跡出土遺物 (2)	105	第137図	第156号住居跡	140
第101図	第136号住居跡	106	第138図	第157・160号住居跡	141
第102図	第138号住居跡	107	第139図	第157号住居跡出土遺物	142
第103図	第138号住居跡出土遺物	107	第140図	第158号住居跡	144
第104図	第139号住居跡	108	第141図	第158号住居跡出土遺物	144
第105図	第139号住居跡カマド	109	第142図	第159号住居跡	145
第106図	第139号住居跡出土遺物 (1)	110	第143図	第159号住居跡出土遺物	145
第107図	第139号住居跡出土遺物 (2)	111	第144図	第160号住居跡出土遺物	146

第145図	第161号住居跡	147	第182図	第182号住居跡出土遺物	181
第146図	第161号住居跡出土遺物	147	第183図	第183号住居跡	182
第147図	第162号住居跡	149	第184図	第183号住居跡出土遺物	182
第148図	第162号住居跡出土遺物	149	第185図	第184・262号住居跡	183
第149図	第163号住居跡	150	第186図	第184号住居跡出土遺物	184
第150図	第163号住居跡出土遺物	150	第187図	第185号住居跡	185
第151図	第164号住居跡	151	第188図	第185号住居跡出土遺物	186
第152図	第164号住居跡出土遺物	152	第189図	第186号住居跡	187
第153図	第165号住居跡	153	第190図	第186号住居跡出土遺物(1)	188
第154図	第165号住居跡出土遺物	154	第191図	第186号住居跡出土遺物(2)	189
第155図	第166号住居跡	156	第192図	第187号住居跡	190
第156図	第166号住居跡出土遺物	156	第193図	第187号住居跡出土遺物	191
第157図	第169号住居跡	157	第194図	第188号住居跡	193
第158図	第169号住居跡出土遺物	158	第195図	第188号住居跡出土遺物	194
第159図	第171号住居跡	159	第196図	第189・203号住居跡	195
第160図	第171号住居跡出土遺物	160	第197図	第189号住居跡出土遺物	196
第161図	第172号住居跡	162	第198図	第190号住居跡	197
第162図	第172号住居跡出土遺物	163	第199図	第191号住居跡	198
第163図	第173号住居跡	164	第200図	第191号住居跡出土遺物	198
第164図	第173号住居跡出土遺物	165	第201図	第192号住居跡	198
第165図	第174・177号住居跡	166	第202図	第192号住居跡出土遺物	199
第166図	第174号住居跡カマド	167	第203図	第193号住居跡	200
第167図	第174号住居跡出土遺物(1)	168	第204図	第193号住居跡カマド	201
第168図	第174号住居跡出土遺物(2)	169	第205図	第193号住居跡出土遺物	202
第169図	第175号住居跡	170	第206図	第194号住居跡	203
第170図	第175号住居跡出土遺物	171	第207図	第194号住居跡出土遺物	204
第171図	第176号住居跡	172	第208図	第196号住居跡	204
第172図	第176号住居跡出土遺物	173	第209図	第196号住居跡出土遺物	205
第173図	第179号住居跡	174	第210図	第197号住居跡(1)	206
第174図	第179号住居跡出土遺物	175	第211図	第197号住居跡(2)	207
第175図	第180号住居跡	175	第212図	第197号住居跡出土遺物	208
第176図	第180号住居跡出土遺物	176	第213図	第198・227号住居跡(1)	210
第177図	第181号住居跡(1)	177	第214図	第198・227号住居跡(2)	211
第178図	第181号住居跡(2)	178	第215図	第198・227号住居跡出土遺物	211
第179図	第181号住居跡出土遺物(1)	179	第216図	第199号住居跡	212
第180図	第181号住居跡出土遺物(2)	180	第217図	第199号住居跡出土遺物(1)	213
第181図	第182号住居跡	181	第218図	第199号住居跡出土遺物(2)	214

第219图	第200号住居跡	215	第256图	第222号住居跡	250
第220图	第200号住居跡出土遺物	216	第257图	第223号住居跡	251
第221图	第201号住居跡	218	第258图	第223号住居跡出土遺物	251
第222图	第201号住居跡出土遺物	219	第259图	第224・236号住居跡	252
第223图	第202号住居跡	220	第260图	第225号住居跡	253
第224图	第202号住居跡出土遺物	221	第261图	第225号住居跡出土遺物	253
第225图	第203号住居跡	221	第262图	第226号住居跡	254
第226图	第203号住居跡出土遺物	222	第263图	第228号住居跡	255
第227图	第204号住居跡	223	第264图	第229号住居跡出土遺物	255
第228图	第204号住居跡出土遺物	224	第265图	第230号住居跡	255
第229图	第207号住居跡	225	第266图	第231号住居跡	256
第230图	第207号住居跡出土遺物	226	第267图	第231号住居跡出土遺物	256
第231图	第208号住居跡	227	第268图	第232号住居跡	257
第232图	第208号住居跡出土遺物	228	第269图	第232号住居跡出土遺物	258
第233图	第209号住居跡	229	第270图	第233号住居跡出土遺物	258
第234图	第209号住居跡出土遺物	229	第271图	第233号住居跡	259
第235图	第210号住居跡	231	第272图	第234号住居跡	260
第236图	第210号住居跡出土遺物	232	第273图	第234号住居跡出土遺物(1)	262
第237图	第211号住居跡	233	第274图	第234号住居跡出土遺物(2)	263
第238图	第211号住居跡出土遺物	233	第275图	第235号住居跡	264
第239图	第212号住居跡	234	第276图	第235号住居跡出土遺物	265
第240图	第212号住居跡出土遺物	234	第277图	第238号住居跡	266
第241图	第213号住居跡	234	第278图	第238号住居跡出土遺物	267
第242图	第214号住居跡	235	第279图	第239号住居跡出土遺物	267
第243图	第215号住居跡	236	第280图	第239号住居跡	268
第244图	第215号住居跡出土遺物	236	第281图	第241号住居跡	269
第245图	第217号住居跡	237	第282图	第241号住居跡出土遺物	270
第246图	第217号住居跡出土遺物	238	第283图	第242号住居跡	271
第247图	第218号住居跡	239	第284图	第243号住居跡	272
第248图	第219号住居跡	240	第285图	第243号住居跡出土遺物	272
第249图	第219号住居跡出土遺物	241	第286图	第246号住居跡	273
第250图	第220号住居跡(1)	242	第287图	第246号住居跡出土遺物	273
第251图	第220号住居跡(2)	243	第288图	第247号住居跡	274
第252图	第220号住居跡出土遺物(1)	244	第289图	第247号住居跡出土遺物	274
第253图	第220号住居跡出土遺物(2)	245	第290图	第249号住居跡	275
第254图	第221・229号住居跡	247	第291图	第249号住居跡出土遺物	275
第255图	第221号住居跡出土遺物	248	第292图	第250号住居跡	276

第293図	第250号住居跡出土遺物	277	第330図	鷲神社社殿部 (1)	321
第294図	第251号住居跡	278	第331図	鷲神社社殿部 (2)	322
第295図	第251号住居跡カマド	279	第332図	鷲神社跡出土遺物	324
第296図	第251号住居跡出土遺物 (1)	280	第333図	流路跡全体図	325
第297図	第251号住居跡出土遺物 (2)	281	第334図	流路跡土層断面図 (1)	328
第298図	第252号住居跡出土遺物	282	第335図	流路跡土層断面図 (2)	329
第299図	第252・256号住居跡	283	第336図	小グリッド区画図	330
第300図	第253号住居跡	284	第337図	流路跡出土土器重量分布図	332
第301図	第253号住居跡出土遺物	284	第338図	流路跡出土坏数個体数	333
第302図	第255号住居跡	285	第339図	流路跡出土土器断面投影範囲	334
第303図	第255号住居跡出土遺物	286	第340図	流路跡土器出土状況 (A・B 地点)	335
第304図	第256号住居跡出土遺物	287	第341図	流路跡土器出土状況 (C 地点)	336
第305図	第257号住居跡	287	第342図	流路跡土器出土状況 (D 地点)	337
第306図	第258号住居跡	288	第343図	流路跡土器出土状況 (E 地点)	338
第307図	第259号住居跡	289	第344図	流路跡土器出土状況 (F・G 地点)	339
第308図	第260号住居跡	290	第345図	流路跡土器出土状況 (H 地点)	340
第309図	第260号住居跡出土遺物 (1)	291	第346図	流路跡出土土器分布 (5世紀後半)	341
第310図	第260号住居跡出土遺物 (2)	292	第347図	流路跡出土土器分布 (6世紀第I四半期・西側)	342
第311図	第260号住居跡出土遺物 (3)	293	第348図	流路跡出土土器分布 (6世紀第I四半期・東側)	343
第312図	第263号住居跡	294	第349図	流路跡出土土器分布 (6世紀第II四半期)	344
第313図	土坑分布図	295	第350図	流路跡出土遺物 (1)	345
第314図	土坑 (1)	297	第351図	流路跡出土遺物 (2)	346
第315図	土坑 (2)	298	第352図	流路跡出土遺物 (3)	347
第316図	土坑 (3)	300	第353図	流路跡出土遺物 (4)	348
第317図	土坑出土遺物	302	第354図	流路跡出土遺物 (5)	349
第318図	井戸跡分布図	304	第355図	流路跡出土遺物 (6)	350
第319図	井戸跡	305	第356図	流路跡出土遺物 (7)	351
第320図	溝跡分布図	307	第357図	流路跡出土遺物 (8)	352
第321図	溝跡	309	第358図	流路跡出土遺物 (9)	353
第322図	溝跡土層断面図	310	第359図	流路跡出土遺物 (10)	354
第323図	溝跡出土遺物	311	第360図	流路跡出土遺物 (11)	355
第324図	グリッドピット区割図	314	第361図	流路跡出土遺物 (12)	356
第325図	グリッドピット出土遺物	314	第362図	流路跡出土遺物 (13)	357
第326図	グリッドピット (1)	315	第363図	流路跡出土遺物 (14)	358
第327図	グリッドピット (2)	316			
第328図	グリッドピット (3)	317			
第329図	方形区画	319			

第364図	流路跡出土遺物 (15) ……………	359	第394図	飯積遺跡成立期のカマド……………	406
第365図	流路跡出土遺物 (16) ……………	360	第395図	地域別煙道長 (1) ……………	408
第366図	流路跡出土遺物 (17) ……………	361	第396図	地域別煙道長 (2) ……………	409
第367図	流路跡出土遺物 (18) ……………	362	第397図	竪穴住居跡の床面標高……………	410
第368図	流路跡出土遺物 (19) ……………	363	第398図	床面標高時期的推移……………	411
第369図	流路跡出土遺物 (20) ……………	364	第399図	集落変遷図 (5Ⅲ・Ⅳ) ……………	413
第370図	流路跡出土遺物 (21) ……………	365	第400図	集落変遷図 (6Ⅰ・Ⅱ) ……………	415
第371図	流路跡出土遺物 (22) ……………	366	第401図	集落変遷図 (6Ⅲ・Ⅳ) ……………	416
第372図	流路跡出土遺物 (23) ……………	367	第402図	集落変遷図 (7Ⅰ・Ⅱ) ……………	417
第373図	流路跡出土遺物 (24) ……………	368	第403図	集落変遷図 (7Ⅲ・Ⅳ) ……………	418
第374図	流路跡出土遺物 (25) ……………	369	第404図	集落変遷図 (7末～8Ⅲ) ……………	419
第375図	流路跡出土遺物 (26) ……………	370	第405図	集落変遷図 (8Ⅳ～9Ⅲ・10前) ……	420
第376図	流路跡出土遺物 (27) ……………	371	第406図	飯積遺跡周辺の流路……………	422
第377図	流路跡出土遺物 (28) ……………	372	第407図	古墳時代から古代の流路……………	423
第378図	流路跡出土遺物 (29) ……………	373	第408図	5世紀第Ⅲ四半期の土器と地域……	425
第379図	流路跡出土遺物 (30) ……………	374	第409図	5世紀第Ⅳ四半期の土器と地域……	426
第380図	流路跡出土遺物 (31) ……………	375	第410図	6世紀第Ⅰ四半期の土器と地域……	427
第381図	流路跡出土遺物 (32) ……………	375	第411図	6世紀第Ⅱ四半期の土器と地域……	428
第382図	グリッド・表採遺物 (1) ……………	385	第412図	6世紀第Ⅲ四半期の土器と地域……	429
第383図	グリッド・表採遺物 (2) ……………	386	第413図	6世紀第Ⅳ四半期の土器と地域……	430
第384図	グリッド・表採遺物 (3) ……………	387	第414図	7世紀第Ⅰ四半期の土器と地域……	431
第385図	グリッド・表採遺物 (4) ……………	388	第415図	7世紀第Ⅱ四半期の土器と地域……	432
第386図	グリッド・表採遺物 (5) ……………	389	第416図	7世紀第Ⅲ四半期の土器と地域……	433
第387図	グリッド・表採遺物 (6) ……………	390	第417図	7世紀第Ⅳ四半期の土器と地域……	434
第388図	竪穴住居跡の主軸と規模……………	396	第418図	7世紀末から8世紀初頭の土器と地域 ……………	435
第389図	カマド主軸分布……………	398	第419図	8世紀前葉の土器と地域 ……………	
第390図	カマド掘り方分布図……………	399	第420図	8世紀第Ⅲ四半期の土器と地域……	438
第391図	カマド構築材……………	401			
第392図	組合せ収納例 (1) ……………	402			
第393図	組合せ収納例 (2) ……………	403			

表 目 次

第1表	北川辺町遺跡一覧……………	7	第4表	第95号住居跡出土遺物観察表……………	32
第2表	第93号住居跡出土遺物観察表……………	31	第5表	第96号住居跡出土遺物観察表……………	34
第3表	第94号住居跡出土遺物観察表……………	32	第6表	第97号住居跡出土遺物観察表……………	36

第81表	第191号住居跡出土遺物観察表……………197	第118表	第247号住居跡出土遺物観察表 ……274
第82表	第192号住居跡出土遺物観察表……………199	第119表	第249号住居跡出土遺物観察表 ……275
第83表	第193号住居跡出土遺物観察表……………202	第120表	第250号住居跡出土遺物観察表 ……277
第84表	第194号住居跡出土遺物観察表……………203	第121表	第251号住居跡出土遺物観察表 ……282
第85表	第196号住居跡出土遺物観察表……………205	第122表	第252号住居跡出土遺物観察表 ……282
第86表	第197号住居跡出土遺物観察表……………209	第123表	第253号住居跡出土遺物観察表 ……284
第87表	第198・227号住居跡出土遺物観察表 ……211	第124表	第255号住居跡出土遺物観察表 ……286
第88表	第199号住居跡出土遺物観察表……………214	第125表	第256号住居跡出土遺物観察表 ……287
第89表	第200号住居跡出土遺物観察表……………217	第126表	第260号住居跡出土遺物観察表 ……293
第90表	第201号住居跡出土遺物観察表……………220	第127表	土坑出土遺物観察表……………303
第91表	第202号住居跡出土遺物観察表……………221	第128表	溝跡出土遺物観察表……………312
第92表	第203号住居跡出土遺物観察表……………222	第129表	グリッドピット計測表……………313
第93表	第204号住居跡出土遺物観察表……………224	第130表	グリッドピット出土遺物観察表……………314
第94表	第207号住居跡出土遺物観察表……………225	第131表	鷲神社跡出土遺物観察表……………324
第95表	第208号住居跡出土遺物観察表……………229	第132表	流路跡出土遺物計測表……………331
第96表	第209号住居跡出土遺物観察表……………230	第133表	流路跡出土遺物観察表 (E-1) ……376
第97表	第210号住居跡出土遺物観察表……………232	第134表	流路跡出土遺物観察表 (E-2) ……376
第98表	第211号住居跡出土遺物観察表……………233	第135表	流路跡出土遺物観察表 (E-2) ……377
第99表	第212号住居跡出土遺物観察表……………234	第136表	流路跡出土遺物観察表 (E-3) ……377
第100表	第215号住居跡出土遺物観察表 ……236	第137表	流路跡出土遺物観察表 (E-4) ……377
第101表	第217号住居跡出土遺物観察表 ……238	第138表	流路跡出土遺物観察表 (E-4) ……378
第102表	第219号住居跡出土遺物観察表 ……240	第139表	流路跡出土遺物観察表 (E-5) ……378
第103表	第220号住居跡出土遺物観察表 ……246	第140表	流路跡出土遺物観察表 (E-6) ……378
第104表	第221号住居跡出土遺物観察表 ……249	第141表	流路跡出土遺物観察表 (F-1) ……378
第105表	第223号住居跡出土遺物観察表 ……251	第142表	流路跡出土遺物観察表 (F-1) ……379
第106表	第225号住居跡出土遺物観察表 ……254	第143表	流路跡出土遺物観察表 (F-2) ……379
第107表	第229号住居跡出土遺物観察表 ……255	第144表	流路跡出土遺物観察表 (F-3) ……379
第108表	第231号住居跡出土遺物観察表 ……256	第145表	流路跡出土遺物観察表 (F-3) ……380
第109表	第232号住居跡出土遺物観察表 ……258	第146表	流路跡出土遺物観察表 (F-4) ……380
第110表	第233号住居跡出土遺物観察表 ……258	第147表	流路跡出土遺物観察表 (F-4) ……381
第111表	第234号住居跡出土遺物観察表 ……263	第148表	流路跡出土遺物観察表 (F-5) ……381
第112表	第235号住居跡出土遺物観察表 ……265	第149表	流路跡出土遺物観察表 (F-5) ……382
第113表	第238号住居跡出土遺物観察表 ……267	第150表	流路跡出土遺物観察表 (F-6) ……382
第114表	第239号住居跡出土遺物観察表 ……267	第151表	流路跡出土遺物観察表 (F-6) ……383
第115表	第241号住居跡出土遺物観察表 ……271	第152表	流路跡出土遺物観察表 (F-7) ……383
第116表	第243号住居跡出土遺物観察表 ……272	第153表	流路跡第二次堆積層出土遺物観察表…383
第117表	第246号住居跡出土遺物観察表 ……273	第154表	グリッド出土遺物観察表 (D-3) ……384

第155表	グリッド出土遺物観察表 (D-4) …384	第172表	グリッド出土遺物観察表 (H-6) …391
第156表	グリッド出土遺物観察表 (E-3) …384	第173表	グリッド出土遺物観察表 (I-3) …391
第157表	グリッド出土遺物観察表 (E-4) …384	第174表	グリッド出土遺物観察表 (I-4) …391
第158表	グリッド出土遺物観察表 (E-5) …384	第175表	グリッド出土遺物観察表 (I-6) …392
第159表	グリッド出土遺物観察表 (F-4) …384	第176表	グリッド出土遺物観察表 (J-2) …392
第160表	グリッド出土遺物観察表 (F-5) …384	第177表	グリッド出土遺物観察表 (J-4) …392
第161表	グリッド出土遺物観察表 (F-7) …384	第178表	グリッド・表採遺物観察表……………392
第162表	グリッド出土遺物観察表 (F-8) …390	第179表	新旧対照表 (1) ……………393
第163表	グリッド出土遺物観察表 (G-2) …390	第180表	新旧対照表 (2) ……………394
第164表	グリッド出土遺物観察表 (G-3) …390	第181表	土坑・井戸跡・溝跡新旧対照表……………394
第165表	グリッド出土遺物観察表 (G-4) …390	第182表	土器構成表 (1) ……………438
第166表	グリッド出土遺物観察表 (G-5) …390	第183表	土器構成表 (2) ……………439
第167表	グリッド出土遺物観察表 (G-7) …390	第184表	土器構成表 (3) ……………440
第168表	グリッド出土遺物観察表 (H-1) …390	第185表	土器構成表 (4) ……………441
第169表	グリッド出土遺物観察表 (H-2) …391	第186表	第408～414図の土器……………442
第170表	グリッド出土遺物観察表 (H-3) …391	第187表	第414～420図の土器……………443
第171表	グリッド出土遺物観察表 (H-5) …391		

図版目次

口絵 1	遺跡遠景	第95号住居跡カマド
口絵 2	調査区全景	図版 5 第96号住居跡
口絵 3	3・4次調査区全景	第97号住居跡
口絵 4	第111号住居跡カマド 第111号住居跡カマド (断面)	図版 6 第97号住居跡カマド 第98号住居跡カマド
口絵 5	第251号住居跡出土遺物 第260号住居跡出土遺物	図版 7 第112号住居跡カマド 第101号住居跡
口絵 6	第139号住居跡出土遺物 F-4 グリッド出土土器	図版 8 第101号住居跡カマド 第102号住居跡
図版 1	調査区全景 (利根川堤防上から) 調査区全景 (北西から)	図版 9 第104号住居跡 第95号住居跡
図版 2	調査区全景 (南東から) 旧流路跡 (西から)	図版10 第107号住居跡カマド 第108号住居跡
図版 3	第93号住居跡 第94号住居跡	図版11 第108号住居跡カマド 第109号住居跡
図版 4	第95号住居跡	図版12 第109号住居跡カマド

	第109号住居跡貯蔵穴		第129号住居跡カマド
図版13	第109号住居跡	図版33	第130号住居跡
	第110号住居跡		第130号住居跡カマド
図版14	第110号住居跡カマド	図版34	第130号住居跡カマド
	第110号住居跡（馬歯）	図版35	第130号住居跡（馬歯）
図版15	第111号住居跡		第131号住居跡
	第111号住居跡カマド	図版36	第131号住居跡カマド
図版16	第111号住居跡カマド		第132号住居跡
	第111号住居跡カマド（掘方）	図版37	第133号住居跡
図版17	第111号住居跡カマド（掘方）		第133号住居跡カマド
図版18	第112号住居跡	図版38	第134号住居跡
	第112号住居跡カマド		第135号住居跡
図版19	第112号住居跡カマド	図版39	第135号住居跡カマド
図版20	第112号住居跡カマド		第135号住居跡カマド（掘方）
図版21	第113号住居跡	図版40	第135号住居跡
	第113号住居跡カマド		第136号住居跡
図版22	第114号住居跡	図版41	第138号住居跡
	第114号住居跡カマド		第138号住居跡カマド
図版23	第115号住居跡	図版42	第139号住居跡
	第115号住居跡カマド		第139号住居跡カマド
図版24	第115号住居跡カマド	図版43	第139号住居跡カマド
	第115号住居跡		第139号住居跡
図版25	第117号住居跡	図版44	第141号住居跡
	第118号住居跡		第141号住居跡（柱穴）
図版26	第118号住居跡カマド	図版45	第141号住居跡カマド（掘方）
	第118号住居跡カマド（完掘）	図版46	第141号住居跡カマド（掘方）
図版27	第119号住居跡		第141号住居跡カマド
	第120号住居跡	図版47	第141号住居跡カマド（掘方）
図版28	第120号住居跡カマド	図版48	第142号住居跡
	第122号住居跡カマド		第143号住居跡
図版29	第124号住居跡	図版49	第143号住居跡カマド
	第124号住居跡カマド		第144号住居跡
図版30	第125号住居跡	図版50	第146号住居跡
	第125号住居跡カマド		第147号住居跡
図版31	第126号住居跡カマド	図版51	第147号住居跡カマド
	第127号住居跡		第148号住居跡カマド
図版32	第129号住居跡	図版52	第149号住居跡

	第149号住居跡カマド	図版71	第171号住居跡カマド
図版53	第150号住居跡		第172号住居跡
	第150号住居跡カマド	図版72	第172号住居跡カマド
図版54	第152号住居跡		第173号住居跡
	第152号住居跡カマド	図版73	第173号住居跡カマド
図版55	第152号住居跡カマド		第174号住居跡
	第153号住居跡	図版74	第174号住居跡カマド
図版56	第153号住居跡		第175号住居跡
	第153号住居跡カマド	図版75	第176号住居跡
図版57	第153号住居跡カマド (掘方)		第177号住居跡
	第149号住居跡	図版76	第179号住居跡
図版58	第154号住居跡		第180号住居跡
	第155号住居跡	図版77	第180号住居跡カマド
図版59	第155号住居跡カマド		第181号住居跡
	第156号住居跡	図版78	第181号住居跡カマド
図版60	第157号住居跡		第181号住居跡
	第157号住居跡カマド	図版79	第182号住居跡
図版61	第158号住居跡		第183号住居跡カマド
	第159号住居跡	図版80	第184号住居跡
図版62	第159号住居跡カマド	図版81	第184号住居跡カマド
	第160号住居跡		第185号住居跡
図版63	第160号住居跡カマド	図版82	第185号住居跡カマド
	第162号住居跡		第185号住居跡
図版64	第162号住居跡カマド	図版83	第185号住居跡
	第163号住居跡		第186号住居跡
図版65	第163号住居跡カマド	図版84	第186号住居跡カマド
	第164号住居跡		第186号住居跡
図版66	第164号住居跡カマド	図版85	第187号住居跡
	第165号住居跡		第187号住居跡カマド (検出状況)
図版67	第165号住居跡カマド	図版86	第187号住居跡カマド
	第165号住居跡	図版87	第187号住居跡
図版68	第166号住居跡		第188号住居跡
	第166号住居跡カマド	図版88	第188号住居跡カマド
図版69	第169号住居跡		第189号住居跡
	第169号住居跡カマド	図版89	第190号住居跡
図版70	第169号住居跡		第190号住居跡カマド
	第171号住居跡	図版90	第191号住居跡

	第192号住居跡		第208号住居跡
図版91	第192号住居跡カマド	図版110	第208号住居跡
	第193号住居跡		第143号住居跡
図版92	第193号住居跡カマド	図版111	第210号住居跡
	第193号住居跡カマド (完掘)		第210号住居跡カマド
図版93	第193号住居跡	図版112	第210号住居跡
図版94	第193号住居跡		第211号住居跡カマド
	第194号住居跡	図版113	第218号住居跡カマド
図版95	第196号住居跡		第214号住居跡
	第197号住居跡	図版114	第204号住居跡
図版96	第197号住居跡カマド		第204号住居跡カマド
	第197号住居跡カマド (完掘)	図版115	第217号住居跡
図版97	第197号住居跡 (柱穴)		第218号住居跡
	第197号住居跡カマド	図版116	第219号住居跡
図版98	第197号住居跡貯蔵穴		第219号住居跡カマド
	第198号住居跡	図版117	第219号住居跡
図版99	第198号住居跡カマド		第220号住居跡
	第198号住居跡	図版118	第220号住居跡カマド
図版100	第199号住居跡カマド		第220号住居跡カマド (完掘)
	第199号住居跡	図版119	第220号住居跡
図版101	第199号住居跡カマド	図版120	第220号住居跡
	第199号住居跡		第221号住居跡
図版102	第199号住居跡	図版121	第221号住居跡 (柱穴)
	第200号住居跡		第222号住居跡
図版103	第200号住居跡カマド	図版122	第223号住居跡
	第200号住居跡		第224号住居跡
図版104	第201号住居跡	図版123	第225号住居跡
	第201号住居跡カマド		第226号住居跡
図版105	第201号住居跡カマド	図版124	第226号住居跡カマド
	第202号住居跡		第227号住居跡
図版106	第202号住居跡カマド	図版125	第227号住居跡カマド
	第203号住居跡		第228号住居跡
図版107	第204号住居跡	図版126	第232号住居跡
	第204号住居跡カマド		第233号住居跡
図版108	第207号住居跡	図版127	第234号住居跡
	第208号住居跡	図版128	第235号住居跡
図版109	第208号住居跡カマド		第235号住居跡カマド

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|--|
| 図版129 | 第238号住居跡
第238号住居跡 | 図版148 | F-3 グリッド |
| 図版130 | 第238号住居跡
第241号住居跡 | 図版149 | F-3 グリッド |
| 図版131 | 第241号住居跡カマド
第241号住居跡カマド・貯蔵穴 | 図版150 | F-4 グリッド |
| 図版132 | 第241号住居跡貯蔵穴
第241号住居跡 | 図版151 | F-4 グリッド |
| 図版133 | 第242号住居跡
第246号住居跡 | 図版152 | F-4 グリッド |
| 図版134 | 第247号住居跡
第248号住居跡 | 図版153 | F-4 グリッド
F-5 グリッド |
| 図版135 | 第249号住居跡
第250号住居跡 | 図版154 | F-5 グリッド |
| 図版136 | 第251号住居跡
第251号住居跡カマド (検出状況) | 図版155 | F-5 グリッド |
| 図版137 | 第251号住居跡カマド (煙出し)
第251号住居跡カマド | 図版156 | F-5 グリッド
F-6 グリッド |
| 図版138 | 第251号住居跡カマド
第251号住居跡カマド (掘方) | 図版157 | F-6 グリッド |
| 図版139 | 第251号住居跡カマド (掘方)
第251号住居跡 | 図版158 | F-6 グリッド
F-7 グリッド |
| 図版140 | 第252号住居跡
第253号住居跡 | 図版159 | 調査区現況
調査区現況 |
| 図版141 | 第255号住居跡
第256号住居跡 | 図版160 | 旧合の川
旧合の川築堤 |
| 図版142 | 第256号住居跡カマド
第256号住居跡 | 図版161 | 第94号住居跡出土遺物
第95号住居跡出土遺物
第101号住居跡出土遺物
第107号住居跡出土遺物
第108号住居跡出土遺物
第109号住居跡出土遺物 |
| 図版143 | 第259号住居跡
第260号住居跡カマド | 図版162 | 第110号住居跡出土遺物
第111号住居跡出土遺物
第113号住居跡出土遺物
第116号住居跡出土遺物 |
| 図版144 | 第16号土坑
第17号土坑 | 図版163 | 第116号住居跡出土遺物
第118号住居跡出土遺物
第119号住居跡出土遺物
第120号住居跡出土遺物
第125号住居跡出土遺物
第127号住居跡出土遺物 |
| 図版145 | 第18号土坑
第36号井戸跡 | 図版164 | 第133号住居跡出土遺物
第135号住居跡出土遺物
第139号住居跡出土遺物 |
| 図版146 | 第37号井戸跡
第175号住居跡 | | |
| 図版147 | E-1 グリッド | | |

図版165	第141号住居跡出土遺物		第221号住居跡出土遺物
	第143号住居跡出土遺物		第223号住居跡出土遺物
	第144号住居跡出土遺物		第225号住居跡出土遺物
	第146号住居跡出土遺物		第231号住居跡出土遺物
	第147号住居跡出土遺物		第234号住居跡出土遺物
図版166	第148号住居跡出土遺物	図版173	第234号住居跡出土遺物
	第154号住居跡出土遺物		第235号住居跡出土遺物
	第157号住居跡出土遺物		第238号住居跡出土遺物
	第162号住居跡出土遺物		第239号住居跡出土遺物
	第171号住居跡出土遺物		第247号住居跡出土遺物
図版167	第171号住居跡出土遺物		第249号住居跡出土遺物
	第173号住居跡出土遺物		第251号住居跡出土遺物
	第174号住居跡出土遺物	図版174	第251号住居跡出土遺物
	第181号住居跡出土遺物		第252号住居跡出土遺物
図版168	第183号住居跡出土遺物		第260号住居跡出土遺物
	第185号住居跡出土遺物		E-1 グリッド出土遺物
	第186号住居跡出土遺物	図版175	E-1 グリッド出土遺物
	第187号住居跡出土遺物		E-2 グリッド出土遺物
	第188号住居跡出土遺物	図版176	E-2 グリッド出土遺物
	第189号住居跡出土遺物		E-3 グリッド出土遺物
	第193号住居跡出土遺物		E-4 グリッド出土遺物
	第194号住居跡出土遺物	図版177	E-4 グリッド出土遺物
図版169	第196号住居跡出土遺物	図版178	E-5 グリッド出土遺物
	第197号住居跡出土遺物		E-6 グリッド出土遺物
図版170	第197号住居跡出土遺物		F-1 グリッド出土遺物
	第200号住居跡出土遺物		F-2 グリッド出土遺物
	第201号住居跡出土遺物		F-3 グリッド出土遺物
	第202号住居跡出土遺物	図版179	F-3 グリッド出土遺物
	第204号住居跡出土遺物		F-4 グリッド出土遺物
	第207号住居跡出土遺物	図版180	F-4 グリッド出土遺物
図版171	第207号住居跡出土遺物		F-5 グリッド出土遺物
	第208号住居跡出土遺物	図版181	F-5 グリッド出土遺物
	第209号住居跡出土遺物		F-6 グリッド出土遺物
	第211号住居跡出土遺物	図版182	F-6 グリッド出土遺物
	第219号住居跡出土遺物		F-7 グリッド出土遺物
	第220号住居跡出土遺物		G-2 グリッド出土遺物
図版172	第220号住居跡出土遺物		G-5 グリッド出土遺物

	I- 3 グリッド出土遺物		第225号住居跡出土遺物
	I- 4 グリッド出土遺物		第231号住居跡出土遺物
図版183	第101号住居跡出土遺物		第234号住居跡出土遺物
	第102号住居跡出土遺物	図版191	第234号住居跡出土遺物
	第107号住居跡出土遺物		第238号住居跡出土遺物
	第108号住居跡出土遺物		第241号住居跡出土遺物
	第113号住居跡出土遺物		第243号住居跡出土遺物
	第115号住居跡出土遺物		第251号住居跡出土遺物
図版184	第116号住居跡出土遺物	図版192	第251号住居跡出土遺物
	第124号住居跡出土遺物	図版193	第252号住居跡出土遺物
	第133号住居跡出土遺物		第255号住居跡出土遺物
	第135号住居跡出土遺物		第256号住居跡出土遺物
	第141号住居跡出土遺物		第260号住居跡出土遺物
図版185	第147号住居跡出土遺物	図版194	E- 1 グリッド出土遺物
	第149号住居跡出土遺物		E- 2 グリッド出土遺物
	第180号住居跡出土遺物	図版195	E- 2 グリッド出土遺物
	第157号住居跡出土遺物		E- 4 グリッド出土遺物
	第171号住居跡出土遺物	図版196	E- 4 グリッド出土遺物
図版186	第171号住居跡出土遺物		E- 5 グリッド出土遺物
	第173号住居跡出土遺物	図版197	E- 5 グリッド出土遺物
	第175号住居跡出土遺物		E- 6 グリッド出土遺物
	第184号住居跡出土遺物		F- 1 グリッド出土遺物
	第185号住居跡出土遺物	図版198	F- 2 グリッド出土遺物
図版187	第188号住居跡出土遺物		F- 4 グリッド出土遺物
	第193号住居跡出土遺物	図版199	F- 4 グリッド出土遺物
	第197号住居跡出土遺物		F- 5 グリッド出土遺物
図版188	第198号住居跡出土遺物	図版200	F- 6 グリッド出土遺物
	第199号住居跡出土遺物	図版201	F- 6 グリッド出土遺物
	第201号住居跡出土遺物		F- 7 グリッド出土遺物
図版189	第201号住居跡出土遺物		J- 4 グリッド出土遺物
	第202号住居跡出土遺物	図版202	第95号住居跡出土遺物
	第204号住居跡出土遺物		第108号住居跡出土遺物
	第208号住居跡出土遺物		第111号住居跡出土遺物
	第217号住居跡出土遺物	図版203	第112号住居跡出土遺物
図版190	第219号住居跡出土遺物		第113号住居跡出土遺物
	第220号住居跡出土遺物		第115号住居跡出土遺物
	第221号住居跡出土遺物	図版204	第115号住居跡出土遺物

	第129号住居跡出土遺物	図版220	E-2 グリッド出土遺物
図版205	第130号住居跡出土遺物	図版221	E-2 グリッド出土遺物
	第131号住居跡出土遺物		E-3 グリッド出土遺物
図版206	第133号住居跡出土遺物		E-4 グリッド出土遺物
	第139号住居跡出土遺物	図版222	E-4 グリッド出土遺物
図版207	第139号住居跡出土遺物	図版223	E-4 グリッド出土遺物
図版208	第141号住居跡出土遺物		E-5 グリッド出土遺物
	第143号住居跡出土遺物	図版224	E-6 グリッド出土遺物
	第152号住居跡出土遺物		F-1 グリッド出土遺物
	第153号住居跡出土遺物		F-2 グリッド出土遺物
図版209	第165号住居跡出土遺物	図版225	F-3 グリッド出土遺物
	第172号住居跡出土遺物		F-4 グリッド出土遺物
	第173号住居跡出土遺物	図版226	F-4 グリッド出土遺物
	第174号住居跡出土遺物	図版227	F-4 グリッド出土遺物
図版210	第174号住居跡出土遺物		F-5 グリッド出土遺物
	第184号住居跡出土遺物	図版228	F-5 グリッド出土遺物
	第186号住居跡出土遺物	図版229	F-5 グリッド出土遺物
図版211	第186号住居跡出土遺物	図版230	F-5 グリッド出土遺物
	第193号住居跡出土遺物		F-6 グリッド出土遺物
図版212	第193号住居跡出土遺物	図版231	F-6 グリッド出土遺物
	第197号住居跡出土遺物		F-7 グリッド出土遺物
	第199号住居跡出土遺物		J-4 グリッド出土遺物
図版213	第199号住居跡出土遺物	図版232	J-4 グリッド出土遺物
	第203号住居跡出土遺物		河川跡砂層出土遺物
	第208号住居跡出土遺物	図版233	土玉
図版214	第208号住居跡出土遺物		土玉・土錘
	第220号住居跡出土遺物	図版234	玉類
図版215	第234号住居跡出土遺物		玉類ほか
	第235号住居跡出土遺物	図版235	石製品(1)
	第241号住居跡出土遺物		石製品(2)
図版216	第241号住居跡出土遺物	図版236	紡錘車、羽口、鉄滓、古銭、 種子、その他の石製品
	第251号住居跡出土遺物		
図版217	第255号住居跡出土遺物	図版237	鉄製品(1)
	第260号住居跡出土遺物		鉄製品(2)
図版218	E-1 グリッド出土遺物	図版238	貝巢穴痕泥岩(1)
図版219	E-1 グリッド出土遺物		貝巢穴痕泥岩(2)
	E-2 グリッド出土遺物		

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所が施行する大高島地区河川防災ステーション整備事業は、スーパー堤防の築造後、その上に災害時の復旧活動の拠点として、ヘリポート、応急復旧用原材料の備蓄庫、避難所などの各種施設を整備するものである。

埼玉県教育局では、こうした国施行の公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね調整を図ってきたところである。

「大高島地区河川防災ステーション整備事業地内における埋蔵文化財の所在及び取扱いについて」は、利根川上流工事事務所長（当時）から平成14年12月26日付け利上沿第18号で照会があった。

当該事業予定地内には、埼玉県選定重要遺跡「飯積遺跡」の所在が周知されていたため、県教育局では、平成15年1月10日に遺跡範囲等確認のための試掘調査を実施し、その結果をもって、平成15年1月15日付け教文第1383号で次の内容を回答した。

1 埋蔵文化財の所在

名称：飯積遺跡(Na73-001) (県選定重要遺跡)

種別：集落跡

時代：古墳・奈良・平安

所在地：北川辺町大字飯積小字本村165~172

番地他

2 取扱いについて

上記の遺跡は、県選定重要遺跡であるので埋蔵文化財が所在する範囲については、工事計画から、現状保存の措置を講じることが望ましい。なお、やむを得ず工事等により現状を変更する場合には、その取扱いについて別途協議すること。

(補足のための確認調査は、平成16年2月2日に

実施し、その結果は平成16年2月9日付け教文第3326号で回答している。)

利根川上流河川事務所と県教育局は、飯積遺跡の保存について協議を重ねたが、現状保存は困難との結論に達したため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

国土交通省関東地方整備局長、埼玉県教育委員会教育長及び財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長の3者による平成15年9月17日付け「大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、平成15年9月から発掘調査が開始された。

発掘調査の進行に伴い、遺跡における住居跡の分布が濃密かつ重層しほぼ全面的に2層にわたることが明らかになったため、利根川上流河川事務所、県教育局及び県埋蔵文化財調査事業団の3者でその取扱いについて改めて協議を行い、平成17年4月5日付け「大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書の一部を変更する協定書」により、現場発掘作業の終了を「平成17年3月31日」から「平成17年9月30日」に変更することとした。

なお、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長提出の発掘通知(文化財保護法第57条の3：当時)に対する県教育委員会教育長からの勧告は、平成15年9月30日付け教文第3-239号で通知した。

また、県埋蔵文化財調査事業団理事長提出の発掘調査届(文化財保護法第57条：当時)に対する県教育委員会教育長からの指示は次のとおりである。

平成15年9月30日付け教文第2-50号

平成16年4月14日付け教文第2-7号

平成17年5月17日付け教文第2-12号

(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査（第2・3・4次調査）

第2次調査

飯積遺跡の第2次調査は、平成15年9月22日から平成16年3月24日まで実施した。調査面積は3,000㎡である。

9月下旬より事務手続き、調査事務所等の設営を行い、併行して重機による表土除去作業を開始した。10月から補助員による作業に着手し、まず、湧水を排水するための溝の掘削を行った後、遺構確認作業、遺構精査を実施した。遺構確認が困難な調査区南東部は5×5mのグリッド調査を行い、土層断面から遺構の確認を行った。遺構確認の結果、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡、戦国時代の溝跡や井戸跡等が検出された。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺物出土状況や遺構の写真撮影を行い、平成16年3月17日に空中写真撮影を実施した。

遺構の調査終了後、事務所撤去・事務手続きを行い調査は終了した。

第3次調査

平成16年4月8日から平成17年3月31日まで実施した。調査面積は第1面（上層）4,900㎡、第2面（下層）の1,900㎡である。

4月より事務手続き、調査事務所等の設営を行い、調査区の安全確保のためにシートパイルの設置を行った。その後、重機による表土除去、補助員による作業を開始した。昨年度同様、湧水を排水するための溝の掘削を行った後、遺構確認作業、遺構精査を実施した。遺構確認の結果、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡等が多数検出された。10月末には第2面の調査を行うため、再度重機による掘削を実施した。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺

物出土状況や遺構の写真撮影を行い、3月事務手続きを行い、本年度の調査は終了した。

第4次調査

平成17年4月8日から平成17年9月30日まで実施した。調査面積は第2面（下層）の3,000㎡である。

昨年度の作業を引き継いで遺構精査を実施した。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺物出土状況や遺構の写真撮影を行った。6月30日空中写真撮影を実施し、その後、旧河道の調査を行った。遺構や旧河道の調査終了後、9月末に調査区の埋め戻し、器材・事務所等の撤収・撤去、事務手続きを行い、全ての調査が終了した。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書の作成事業は、平成17年4月8日から平成18年3月31日までと平成18年4月10日から平成19年3月31日まで実施した。

平成17年度は、平成15・16年度に調査されたうちの2,200㎡分の整理を行った。4月当初から出土遺物の水洗・註記を行い、続いて遺物の接合・復元作業を行った。並行して全体図・遺構図面は、図面修正を経て第2原図を作成し、スキャナーで取り込んだものをコンピューターでデジタルトレースを行った。遺物は復元が終了したものから実測作業に入り、順次トレース・採拓を開始した。

平成18年度は残り5,700㎡分の整理を行った。作業は前年度同様に進行した。

11月に遺物の写真撮影、図面・写真の割付、原稿執筆を進め報告書の編集を開始した。平成19年1月上旬に印刷会社を決定し入稿、校正を経て、3月末に報告書を刊行した。入稿後に本報告書で扱った図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織 (第2・3・4次調査・整理報告書作成)

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

平成15年度 (発掘調査)

理 事 長	桐 川 卓 夫	調査部	
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹	調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劔 持 和 夫
主 席	田 中 由 夫	統 括 調 査 員	岩 瀬 讓
		調 査 員	永 井 いずみ

平成16年度 (発掘調査)

理 事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹	調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劔 持 和 夫
主 席	田 中 由 夫	統 括 調 査 員	田 中 広 明
		調 査 員	加 藤 隆 則

平成17年度 (発掘調査・整理報告書作成)

理 事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	保 永 清 光	調 査 部 長	今 泉 泰 之
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劔 持 和 夫
主 席	高 橋 義 和	統 括 調 査 員 (調査)	鈴 木 孝 之
主 席	宮 井 英 一	統 括 調 査 員 (調査)	田 中 広 明
		統 括 調 査 員 (調査)	山 本 靖
		調 査 員 (調査)	清 水 慎 也
		主 席 調 査 員 (整理第二担当)	金 子 直 行
		調 査 員 (整理)	加 藤 隆 則

平成18年度 (整理報告書作成)

理 事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調 査 部 長	今 泉 泰 之
総務部		調 査 部 副 部 長 兼 資 料 活 用 部 副 部 長	小 野 美 代 子
総 務 部 副 部 長	昼 間 孝 志	主 幹 兼 整 理 第 一 課 長	磯 崎 一
主 幹 兼 企 画 課 長	劔 持 和 夫	主 査	鈴 木 孝 之
総 務 課 長	高 橋 義 和	主 査	岩 瀬 讓
		主 事	加 藤 隆 則
		主 事	清 水 慎 也

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

飯積遺跡の位置（第1・2図）

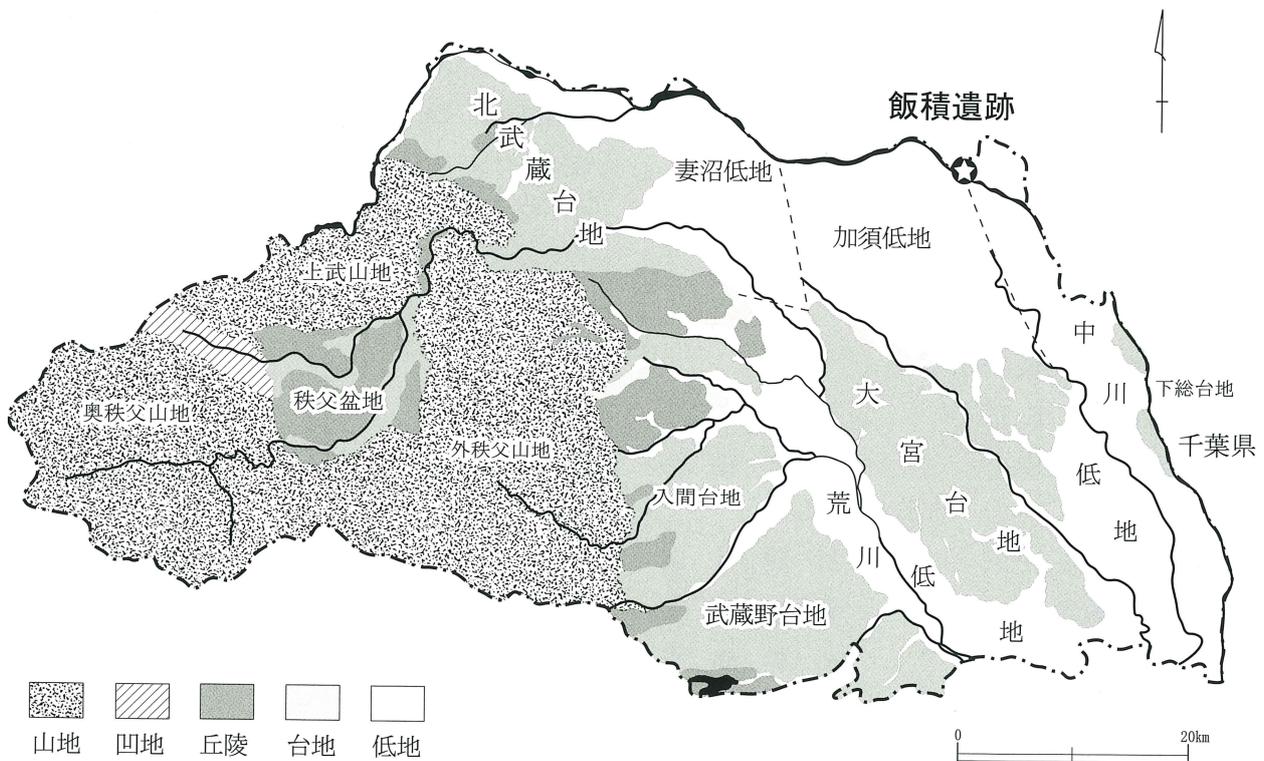
飯積遺跡は、埼玉県北埼玉郡北川辺町大字飯積字本村に所在し、東武日光線柳生駅の南西約3.5kmの距離にある。東流する利根川と、近世まで流れていた合の川が分流するその付根に位置している。

飯積遺跡の所在する北川辺町は、埼玉県の北東端に位置している。都心からは60km圏内にあり、人口1.3万人を擁し、近年都心のベッドタウン化が著しい。町の四周は河川が巡り、南側を除く三方は他県と接している。北は谷田川を境として栃木県下都賀郡藤岡町、東は渡良瀬川を境に茨城県古河市、西は合の川の旧流路を境に群馬県邑楽郡板倉町と接している。また、南西に位置する加須市と北埼玉郡大利根町とは、利根川を隔て接しており、県内では唯一利根川左岸に立地する町である。

町の北東部では渡良瀬川と谷田川が合流し、この

下流3kmの地点では利根川と渡良瀬川が合流する。このため北川辺町は、古くから両河川の洪水に見舞われた。昭和22（1947）年のカスリーン台風で、町が一夜にして水没したことは記憶に新しい。町内に今もなお残る水塚は県内屈指の数であり、洪水の影響の大きさをうかがわせる。町の歴史は、水害との歴史とも言い表せよう。

北川辺町の交通は、北側に国道354号線が東西方向に走り、西は群馬県高崎市まで通じている。東は、町北東部で三国橋や新三国橋により茨城県古河市と連絡し、同県銚田市で、鹿島灘沿いに北上する国道51号線に通じている。また南は、昭和47（1972）年に完成した埼玉大橋によって大利根町と通じているが、完成以前の埼玉県側への交通は飯積と栄にある渡船によるものであった。



第1図 埼玉県の地形

周辺の地形（第3図）

北川辺町周辺の地形は、大きく洪積台地と沖積地に分かれている。北川辺町は、加須低地の北東部に位置しており、南側を除く三方を台地に囲まれている。西側は本遺跡対岸の板倉町大高島まで邑楽台地が迫っており、北側は同町海老瀬まで、藤岡台地が残丘状に延びてきている。このほか、東側は利根川を挟んだ対岸に猿島台地が広く分布している。

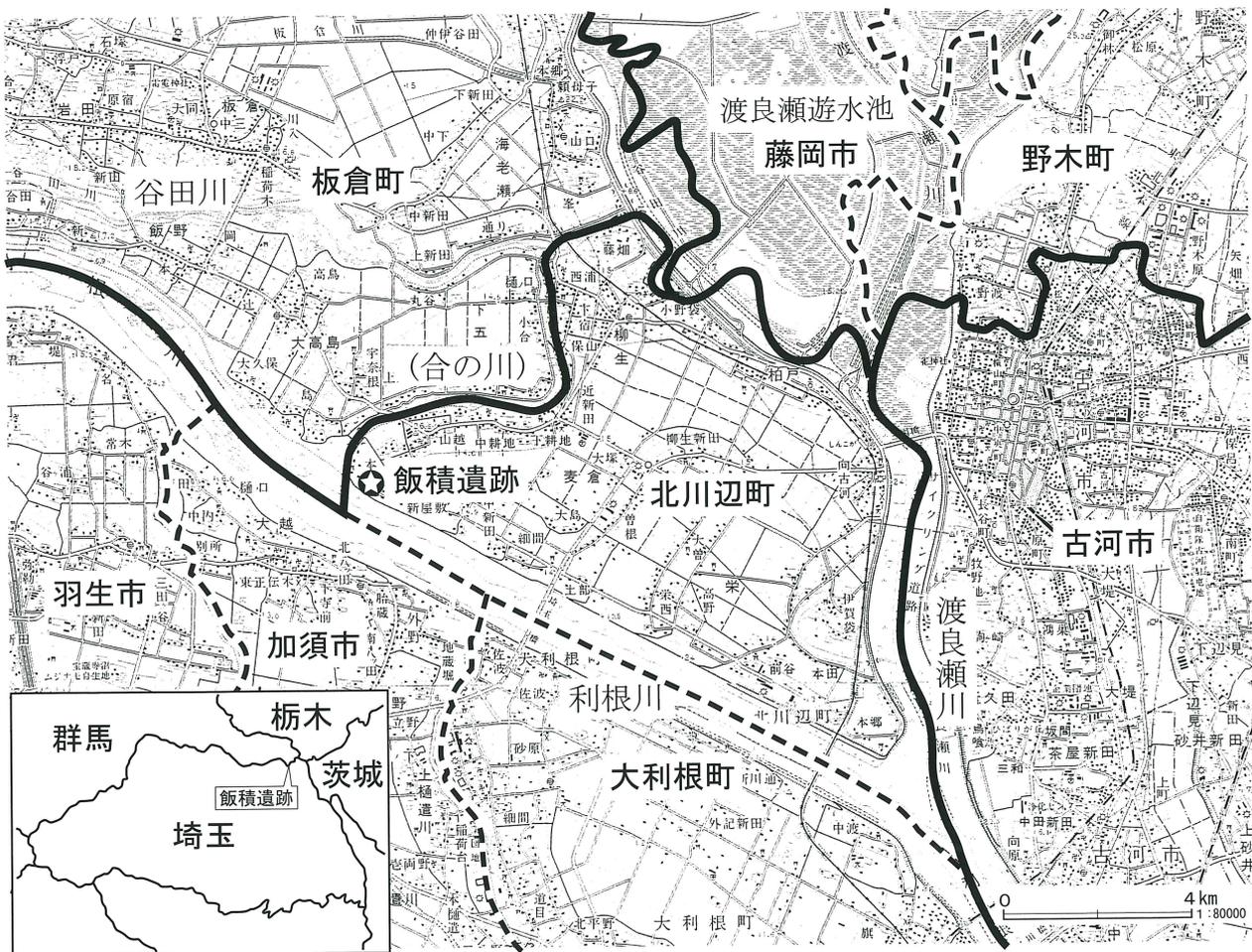
ところで、本遺跡が位置する加須低地では、関東造盆地運動の影響により、洪積台地が沖積地の中にもぐりこんで「埋没台地」となっている。北川辺町を取り囲む台地もこの影響を受けており、群馬県側の邑楽台地では、台地東側と南側の標高が低くなり、台地と連続した埋没台地が確認されている。また、本遺跡とは利根川を挟んだ加須市大越においても埋没台地は確認されている。また、猿島台地では、北

側よりも台地南側の標高が低く、低地部との識別が困難な景観となっている。

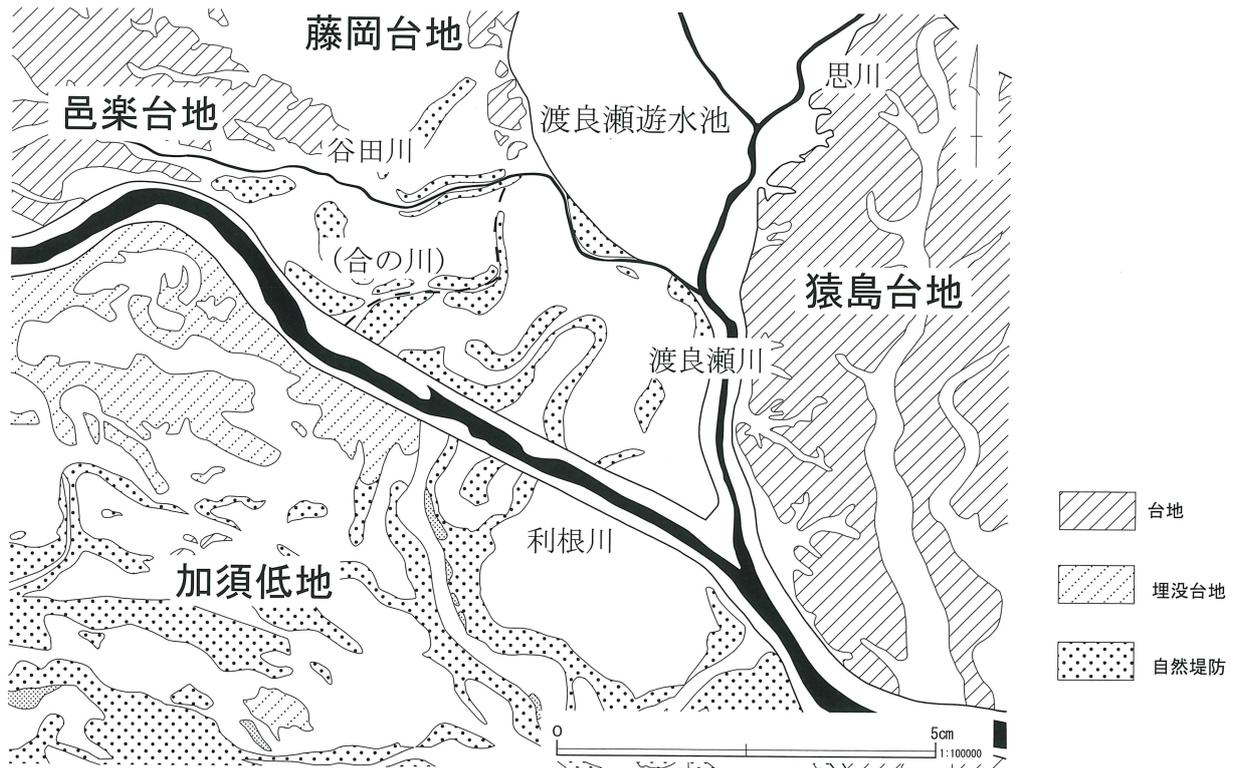
一方、北川辺町の地形は、自然堤防、後背湿地、流路跡からなる。現在の集落は自然堤防上に発達し、後背湿地には水田が広がっている。また、町内各所で見られる蛇行流路跡は、かつての乱流した河川の姿を偲ばせる。小野袋や伊賀袋などの地名にも、蛇行河川の様子を思い描くことができるだろう。

このほか、町内に見られる地形として特筆されるのは、河畔砂丘である。本遺跡の北東700m、飯積字山越では全長520m、最大幅100mほどの河畔砂丘（＝飯積河畔砂丘）が形成されている。河畔砂丘は、加須低地や中川低地において、利根川旧流路に沿って確認されるが、飯積河畔砂丘はこのうちもっとも北側に位置している。

周辺地域の標高は、邑楽台地の最東端の地で17～



第2図 飯積遺跡周辺図



第3図 飯積遺跡周辺の地形

18m、北側の藤岡台地で20~25m、東側の猿島台地で16~20mとなっている。一方、北川辺町の標高は、1960年頃の記録では、先述の飯積河畔砂丘の遍照寺において標高26.2mを計測したとあるが、土取りにより現在この地形はうかがえない。当初はこの地点が町内の最高所であつたらしい。現在確認で

きる標高は、町西側の本遺跡付近が16mともっとも高く、東側の本郷付近で13mと低くなり、全体としては西から東へ向かって下がっている。飯積遺跡は、この標高16m程度の現地表から2~3mほど下位の標高13.5mほどの自然堤防上に立地している。

2. 歴史的環境

飯積遺跡では、古墳時代後期に埋まった流路跡、古墳時代後期から奈良・平安時代、中世末から近世にかけての遺構・遺物を検出した。また、第3・4次調査区の調査前には、飯積鷲神社の本殿基壇部が残されており、あわせてこの調査を行っている。

飯積遺跡の所在する北川辺町の特色として、①この土地が古くから河川と密接に関わっていること、②発掘調査例が少なく考古学的なデータの乏しい地域であること、という二点が指摘される。そこで、飯積遺跡を理解するため、「河川の変遷」と「町内遺跡発見の記録」について、以下で触れてみたい。

河川の変遷

北川辺町の南側を流れる利根川はかつて、羽生市付近から加須低地を南流し東京湾に注いでいた。現在のように千葉県銚子市にて太平洋へ流れ込むようになったのは、徳川幕府による近世初頭の利根川東遷事業の結果である。利根川東遷事業と河川の変遷に関する考察は枚挙に暇がなく、ここでは詳細に触れないが、その概要を示すと以下ようになる。

近世以前の北川辺町付近の利根川は、本遺跡西側で北流する合の川、本町中央部で見られる北川辺蛇行流路、大利根町佐波から南東に流下する浅間川の

三流に分派していた。利根川東遷事業は、江戸へ物資を集める船運目的で行われたとされ、文禄3（1594）年、羽生市上新郷の地において、合の川を締め切ったことに端を発する。その後、元和7（1621）年には、大利根町佐波から猿島郡釈迦沼までを開削し（新川通）、その後、寛永2（1625）年の拡張、宝永2（1705）年の増堀を経ることになる。北川辺蛇行流路は、新川通開削により、両端を締め切られ流路跡となった。さらに天保9（1838）年には、合の川と浅間川が完全に締め切られ、このとき現在の流路がほぼ現出したのである。

以上が、北川辺町付近における、江戸時代の利根川東遷事業による河川の変遷の概略であるが、飯積遺跡を理解する上で特に重要なのは、これ以前の河川流路の様相である。しかしながら、利根川に関する、近世以降の記録が多く残されたのに対し、中世

や古代に遡る記録はほとんど見られない。ましてや、飯積遺跡の形成された古墳時代後期頃の流路を推し量ることは相当困難であろう。このような状況にあつて、本遺跡では、古墳時代後期に埋まった流路跡を確認することができた意義は大きい。該期の自然堤防については、V章で検討してみたい。

町内遺跡発見の記録（第1表）

北川辺町では、昭和50（1975）年発行の『埼玉県遺跡地名表』に、9箇所の遺跡と1箇所の旧跡が登録されている。町内遺跡の発掘調査例はたいへん少なく、本報告を除けば、現在までに行われた発掘調査は、昭和54（1979）年の、北川辺町教育委員会による飯積遺跡第1次調査と、昭和58（1983）年の（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団による太田遺跡（第5図6）のみである。

しかしながら町内では、各地において遺物発見の

第1表 北川辺町遺跡一覧

No	遺跡名	時期	立地	遺跡の内容	発見の契機（年）
1	飯積遺跡	古墳後期～奈良・平安、中・近世	自然堤防 A	堅穴住居跡（古墳後期）192軒、（奈良・平安）53軒、土坑42基、井戸跡31基、溝跡14条、流路跡（古墳後期）、方形区画（中～近世）、鷲神社跡（近世～現代）	発掘調査（1979・2004～2006）
2	須賀遺跡	古墳後～奈・平、中・近	自然堤防 A	土師器片、砥石、骨片、須恵器	耕地整理
3	山越遺跡	古墳後期・奈良	自然堤防 A	土師器片、かまど石、骨片、骨壺	耕地整理（1958）
4	麦倉遺跡	奈良・平安・鎌倉	自然堤防 A	無数の土器片、板碑	耕地整理
5	藤畑遺跡	古墳中～奈・平	自然堤防 A?	土師器埴、甕、坏、高坏	沼地埋め立て
6	新田（太田）遺跡	古墳後期～奈良・平安	自然堤防 B	土師器、須恵器、土玉、古銭、焙烙、天目茶碗、皿、播鉢、煙管、灰釉香炉、青磁片出土。遺物1600点検出するが地層的に乱れている。	発掘調査（1980）
7	曾根遺跡	古墳中・後期奈良・平安	自然堤防 B	完形土器と無数の破片	
8	伊賀袋遺跡	古墳中期	自然堤防 C	土師器 1 個体	
9	倚井の陣屋	戦国～江戸	自然堤防 A	陣屋跡	
10	鶴 島	古墳後～奈・平	自然堤防 A	土師器甕、高坏、坏、須恵器坏「東」墨書	樋管工事（1959）
11	飯 積	古墳後期	自然堤防 A	土師器多数、灰の集積、加工痕ある角閃石安山岩19点→古墳石室か？	樋管工事（1958）
12	久保山	中世	自然堤防 A	板碑	
13	小野袋	古墳中、鎌倉		土師器 1 個体、板碑	
14	土 部	鎌倉～室町	自然堤防 B	板碑（建治3（1277）～文安6（1449）年）多数	耕作中出土（1903）
15	柳生新田	古墳中期	自然堤防 B	土師器高坏、盤（坏？）、長胴甕、甕、埴、板碑	
16	越中沼東	古墳？		土器片	
17	飯積三軒	古墳時代前期	自然堤防 B	折り返し口縁土師器壺	

凡例：自然堤防 A=合の川沿い、自然堤防 B=北川辺蛇行流路沿い、自然堤防 C=渡良瀬川沿い

※No1～9までは『埼玉県遺跡地名表』（1979）をもとに追加修正。No10～16までは『北川辺史の研究 第1巻』（1960）、No17は『飯積遺跡』（1979）をもとに作成。

口伝や記録が残されている。そこで以下では、考古学的データの乏しい本地域の状況を考慮し、これらの発見の記録を整理しておこう。

第1表では、町内で確認された遺跡や遺物出土地点を掲載した。掲載遺跡および遺物採集地点は、17箇所である。その立地はいずれも自然堤防上であり、地点は大きく、自然堤防A・B・C（その位置は表凡例に示した）に分かれる。時期は、古墳時代前期から中・近世までの遺物が確認され、特に古墳時代後期の土師器と、鎌倉・室町時代の板碑は目を引く。町内で最も古い資料は、飯積三軒（17）出土の土師器甕で、4世紀後半頃に位置づけられる。

このほか、同表の補足をしておくと、No10「飯積」は、今回の調査地から200~300mほど東側の堤外地（堤防南際）を指している。『北川辺史の研究 第1巻』では、同地点で、昭和33（1958）年の樋管工事の際、土師器の完形品多数と無数の破片に伴い、角閃石安山岩19点が出土したと記されている。これらの礫を見学する機会に恵まれたが、これによれば、角閃石安山岩は、加工痕ある切石で、周辺地域の古墳の石室石材とよく似たものである。町内における古墳の発見はまだなく、注目されるだろう。

また同書では、「鶴島発見の土師器」として、本遺跡第1次調査前の遺物発見例についても触れている。これによれば、遺物は、昭和34（1959）年の樋管移設工事に伴い、第2次調査区と第3・4次調査区の間、町道1229号線が利根川堤防とぶつかる地点で出土したとある。これらの資料も実見機会があったが、これによれば、本調査でも出土した古墳時代後期の栃木県南部の土師器高坏が含まれていた。

ここでは掲載遺跡のすべてについて触れられず、また、板碑出土地点はこれがすべてではない。町内遺跡については、再び第V章で触れることにしよう。

周辺の遺跡（第4・5図）

飯積遺跡では、古墳時代後期に埋まった流路跡、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡、中世末から近世の区画溝や土坑、井戸跡などが検出された。

弥生時代以前の遺構・遺物は、本遺跡のみならず、町内においても確認されておらず、該期の様相は、必ずしも理解されていない。

そこで以下では、飯積遺跡で検出された古墳時代後期から奈良・平安時代、中・近世の遺跡を中心に、資料の乏しい当町域の状況を顧みて、旧石器時代から弥生時代についても簡単に触れておきたい。

北川辺町周辺での旧石器時代遺跡は非常に少なく、邑楽台地で大袋遺跡（25）、藤岡台地では城山遺跡（31）、猿島台地では野木Ⅲ遺跡（33）をあげるのみである。大袋遺跡では発掘調査により尖頭器、搔器、細石刃が出土している。また、野木Ⅲ遺跡では、昭和63（1988）年の調査区でスクレイパーや剥片など石器31点が確認されている。

縄文時代になると遺跡数は急激に増加を見せる。もっとも、周辺地域における草創期の遺跡は、猿島台地の清六Ⅲ遺跡（32）で、17点6器種の石器が指摘されているだけで、共伴関係にある土器群や遺構は未だ確認されていない。

早期撚糸文期も、遺構を伴う遺跡はない。先述の清六Ⅲ遺跡や古河市域の長谷遺跡（34）、鴻巣C・出口南遺跡（37）、往還西遺跡（39）で土器片数点が採集されただけである。

早期後半頃になると気候の温暖化に伴い、北川辺町周辺まで海水が浸入し（縄文海進）、奥東京湾を形成した。海進海退については、地質学的検討、考古学の調査成果により古くから議論されてきた。ここではその詳細には触れないが、奥東京湾最奥部の海岸線位置については、台地上の貝塚の分布から栃木県藤岡町付近まで、また、海進ピーク期は、地質学的な検討から、黒浜式期から諸磯a式期とされている。いずれにしても、縄文時代早期末から前期中頃までの北川辺町は、海水の浸入した湾または河口となっていた。町内では該期の遺跡は形成されず、周辺台地が生活の舞台となった。

早期後半条痕文期になると、猿島台地では遺跡数がやや増加し、邑楽台地や藤岡台地では、貝塚を伴

う遺跡が形成される。邑楽台地では、小保呂第一貝塚(18)・第二貝塚(19)で、マガキヤヤマトシジミを主体とする層が確認されている。また藤岡台地東縁部では、寺西貝塚(28)、一峯貝塚(26)、離山貝塚(27)など、ヤマトシジミを主体とする茅山式期の貝塚が見られ、すでにこの頃、周辺の低地域一体が砂泥性の湾ないしは河口となっていたことがわかる。

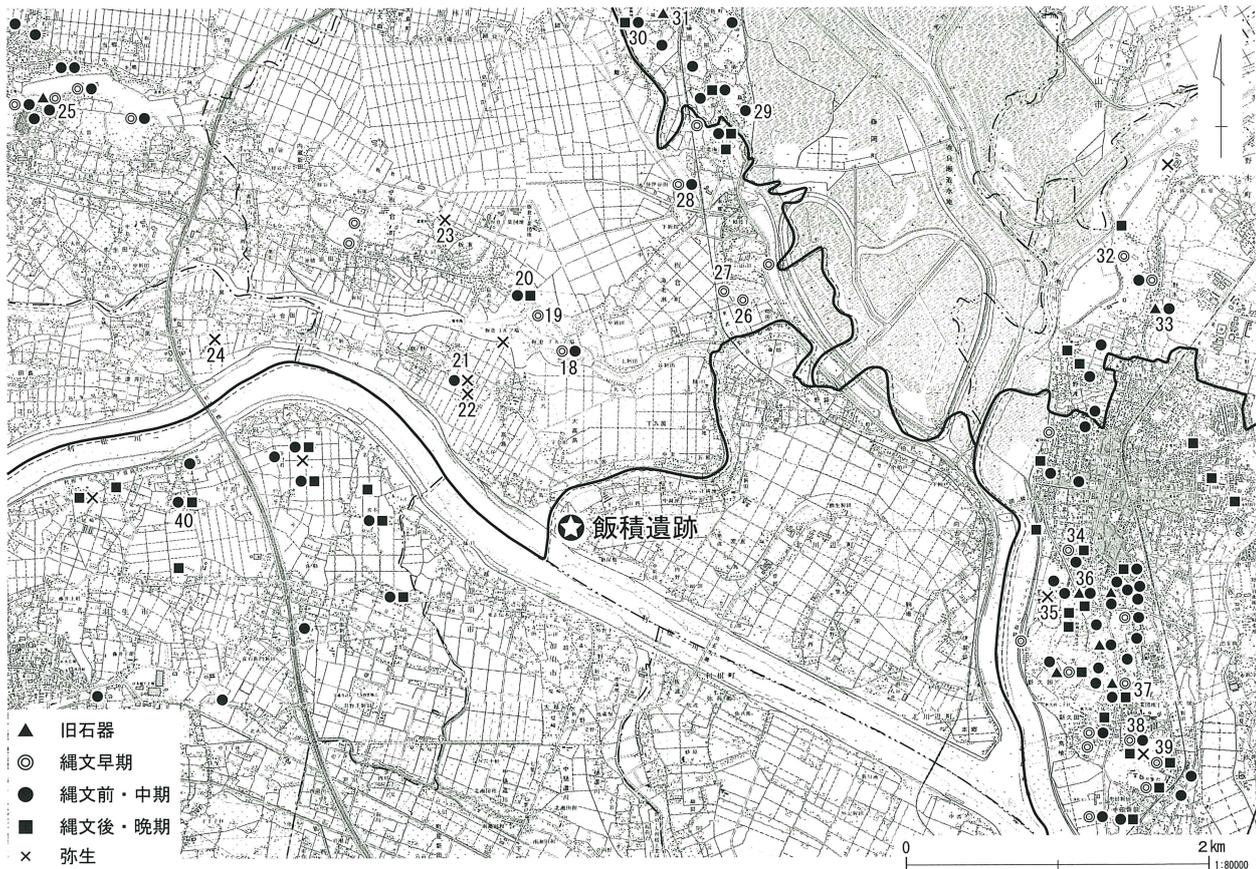
前期前半関山式期には、藤岡台地で、環状集落の篠山貝塚(29)が確認されている。前期中頃黒浜式期には、邑楽・猿島両台地で遺跡数が増加する。特に猿島台地では遺跡の密集が著しく、原町西貝塚(36)では環状に巡る集落が確認された。また、清六Ⅲ遺跡では、貝層を伴う黒浜期の土坑が確認されており、該期の最奥部の貝層である。

藤岡台地では、板倉沼に面する藤岡神社遺跡(30)で、6軒の竪穴住居跡が確認されている。

前期後半以降は、次第に海が退き、湾や河口は徐々に南へ移動していった。当然ながら、海退後の低地域は、即座に居住域に転じたわけではなく、長期間わたって湿地となっていたものと思われる。

汀線の移動と呼応するように、前期後半から中期初頭は、集落がほとんど見られなくなる。また、中期前半も、土器片を出土する遺跡は見られるものの、遺構を伴った遺跡は非常に少なく、藤岡神社遺跡で阿玉台式期の集落が見られるのみである。同遺跡はその後、加曾利E式～晩期安行式期まで、遺構の増減を繰り返しながら集落が継続する。

中期後半以降の遺跡は、散布地としていずれの台地にも多数存在するが、調査事例が少なく、遺構が



- | | | | | | | | |
|------------|------------|----------|--------------|-----------|----------|----------|----------|
| 18 小保呂第1貝塚 | 19 小保呂第2貝塚 | 20 板倉遺跡 | 21 辻(美城)遺跡 | 22 登戸遺跡 | 23 雲間遺跡 | 24 斗合田遺跡 | 25 大袋遺跡 |
| 26 一峯貝塚 | 27 離山貝塚 | 28 寺西貝塚 | 29 篠山貝塚 | 30 藤岡神社遺跡 | 31 城山遺跡 | 32 清六Ⅲ遺跡 | 33 野木Ⅲ遺跡 |
| 34 長谷遺跡 | 35 ラントウ裏遺跡 | 36 原町西貝塚 | 37 鴻巣C・出口南遺跡 | 38 坂間遺跡 | 39 往還西遺跡 | 40 登戸遺跡 | |

第4図 遺跡分布図(旧石器～弥生)

明らかにされた遺跡はほとんどない。しかしながら、藤岡神社遺跡の例を見る限り、周辺の台地にも該期の集落が存在する可能性は高い。

後期・晩期の遺跡としては、猿島台地の板倉遺跡(20)で良好な資料が確認されている。同遺跡は、昭和初期からすでに、縄文時代晩期の遺跡として紹介され、該期の型式論研究に供されている。出土土器は、阿玉台式から安行3c式期まで見られ、この他、大型の遮光器系土偶や石剣、岩版、土版など儀礼に用いられた遺物が多数出土した。また、同じ板倉沼に面した藤岡神社遺跡では、晩期安行式期の竪穴住居跡2軒に伴い、大洞式を含む多量の土器が出土した。

一方、加須低地側の縄文時代の遺跡は、調査例がほとんどなく、実態は掴めていない。しかしながら羽生市域では、台地上で、前期から後・晩期までの遺物が採集され、特に後・晩期の資料が目立つ。発戸遺跡(40)は土製仮面の出土で有名である。

以上のように、晩期前半頃までの良好な資料を残した当地域は、その後半期には遺跡数が激減し、弥生中期まで、いずれの台地においても遺跡がほとんど見られなくなる。

邑楽台地では、雲間遺跡(23)で、中期前半の墓跡または集落跡と推定されているほかは、辻(美城)遺跡(21)(中期前半)、登戸遺跡(22)(須和田式期)、斗合田遺跡(24)の数例をあげることができるが、いずれも遺構は伴わない。

猿島台地側でも集落の検出例はなく、遺跡自体の数も少ない。このような中で、須和田式期の再埋葬19基を検出した清六Ⅲ遺跡は、該期の墓制を知る上で格好の資料を提供した。このほか、同台地では、須和田式期のラントウ裏遺跡(35)、十王台式期の坂間遺跡(38)の2例をあげるのみである。

次に、飯積遺跡の形成された古墳時代以降の周辺遺跡を見ていこう(第5図)。

低地域のもっとも古い遺跡は、町内における飯積三軒や柳生新田遺跡(15)があげられ(前項第1表

参照)、時期は4世紀後半から5世紀前半に位置づけられる。ともに採集資料で遺構は伴わないが、町内における低地域への集落形成は、現状では、この時期をもって行われたと理解しておきたい。

飯積遺跡では、5世紀後半から自然堤防上に集落が形成され始める。調査の結果、集落形成以前の自然堤防は、河川の浸食を経験していたことが明らかになった。この時代、流路は比較的簡単に変更したらしく、飯積遺跡は、河川浸食が終わり、流路の安定した自然堤防上に形成された集落であった。

以上のような集落形成が行われる一方で、引き続き台地には集落が形成され、古墳も築造された。

弥生時代から古墳時代への移行は、調査例が少なくその様相は捉え難い。邑楽台地の赤生田道満遺跡(56)では、弥生時代末頃から古墳時代前期の方形周溝墓が検出された。該期の数少ない資料である。

前期古墳では、邑楽台地の赤城塚古墳で、三角縁仏獣鏡が出土している。また、猿島台地側では、前・中期の土器を採集できる遺跡は数多いが、ほとんど調査がない。唯一、清六Ⅲ遺跡では、古墳時代前期の周溝墓3基の調査例があり、周溝からは折り返し口縁の土師器壺が出土し、近接する地点でパレススタイルの土師器壺が確認されている。

中期後半から後期になると、周辺地域では、比較的大規模の集落を形成し、群集墳を築くようになる。

北川辺町内遺跡同様、周辺地域で低地域に集落形成を開始するのもこの時期からで、谷田川左岸では沼田南遺跡(50)や花和田遺跡(49)、右岸では伊勢ノ木遺跡(45)や岡西遺跡(46)、上流では上江黒遺跡(57)、また、利根川左岸では新村下遺跡(48)や城遺跡(47)などの集落が営まれた。いずれの遺跡も、古墳時代中期から後期に集落が形成され、奈良・平安時代まで継続している。

このうち、沼田南遺跡や花和田遺跡、岡西遺跡、新村下遺跡、城遺跡では、古代の洪水層が確認された。低地域特有の現象であり、本遺跡の洪水層を位置づけていく上で非常に参考になる。また、伊勢ノ

木遺跡では、本遺跡でほとんど出土しない、内斜暗文土器がまとまって見られ、その相異が注目される。

以上の遺跡群は、飯積遺跡や北川辺町内遺跡の、低地域への集落形成を考える上で、その時期が古墳時代中期とほぼ一致を見せること、また、非常に大規模で継続的な集落形成が行われているという二点において注意されよう。

一方、猿島台地では、渡良瀬遊水池を挟んだ、飯積遺跡から北東8.5kmに、本遺跡と並行する野木Ⅲ遺跡や清六Ⅲ遺跡、杏林製薬工場内遺跡(59)などの集落が形成された。特に野木Ⅲ、清六Ⅲ遺跡では、栃木県南部地域に特徴的な土師器坏や甕が多出している。先述の、内斜暗文坏を多出した伊勢ノ木遺跡と合わせて、本遺跡を含めたこの狭いエリアに位置する遺跡の出土土器の差異は、当時の国境とこれをめぐる交流を考える上で非常に興味深い問題である。

古墳時代後期は、周辺において古墳群の営まれた時期でもある。加須低地の埋没台地上では、加須市域において大越古墳群(A)や樋遣川古墳群(B)、羽生市域で村君古墳群(C)、今泉古墳群(D)、尾崎古墳群(E)などが築かれた。いずれの古墳群も調査はほとんど行われていないが、村君古墳群にある永明寺古墳(66)(全長78mの前方後円墳)では、昭和6(1931)年に主体部の礫槨が開けられ、武器や馬具、金環などが出土した。出土遺物によれば6世紀初頭の築造である。また、樋遣川古墳群の西2.5kmにある鶴ヶ塚古墳(65)では鞍形埴輪が出土しており、6世紀第Ⅲ四半期の時期が与えられている。

邑楽台地では、6世紀後半から7世紀初頭にかけて、測ノ上古墳(55)、道明山古墳(52)、筑波山古墳(53)、舟山古墳(54)などの前方後円墳が継続して築かれた。これらの古墳は、いずれも石室石材に角閃石安山岩を用いているのが特徴である。同石材を石室に用いた古墳は、利根川流域に分布し、上流では群馬県渋川市付近で、また下流では古利根川沿いの北葛飾郡杉戸町目沼6号墳でも確認されている。

一方、藤岡台地側では、7世紀後半に頼母子横穴群(58)が形成された。周辺地域にこれ以外の横穴墓はなく、分布の偏在性が注目される。

猿島台地では、野渡古墳群(F)が確認されているほか、古河市域で頼政郭古墳(60)、虚空蔵菩薩前古墳(61)、元大六天古墳(62)、東谷古墳(63)駒塚古墳(64)など、後期古墳が多数確認されている。現存古墳は少ないが、市内には「四ツ塚」の小字名も残っており、かつての古墳群の存在を偲ばせる。

調査例も少なく、その記録もわずかであるが、駒塚古墳の調査では、6世紀後半の円筒埴輪片や形象埴輪(人物埴輪、大刀形埴輪)を検出している。また、6世紀後半の頼政郭古墳では、横穴式石室の埋葬主体から、多数の副葬品が出土した。その内容は、金環や管玉・切子玉・棗玉・ガラス玉などの玉類、鉄鏃・刀子などの鉄製品である。

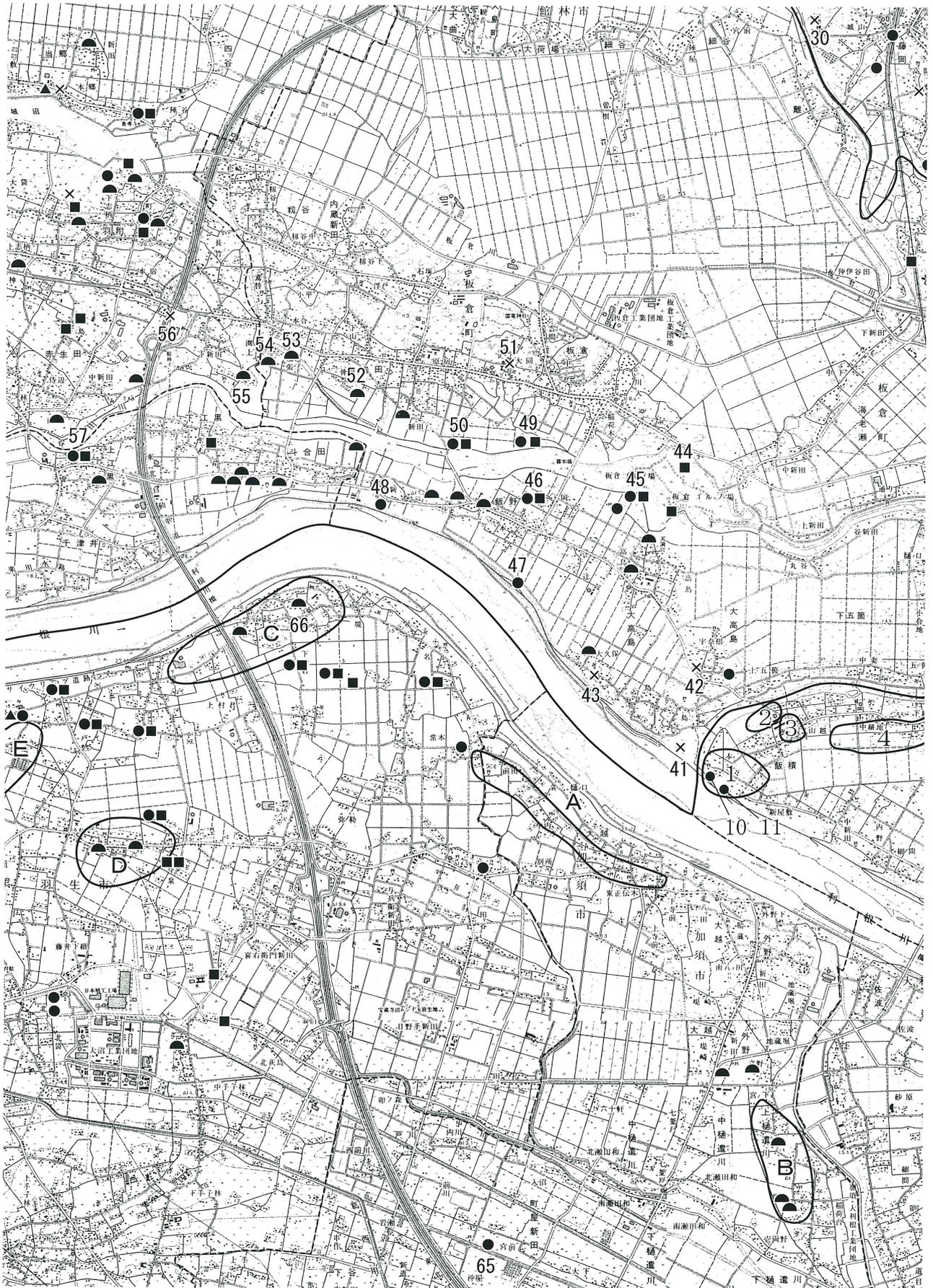
ところで、前項でも触れたように、現状では、飯積遺跡近在で古墳は確認されていないが、周辺で石室石材と思しき角閃石安山岩の截石が出土しており、古墳群が存在していた可能性は高いであろう。

奈良・平安時代は、飯積遺跡で、前代から集落が引き続いて営まれ、住居規模の縮小化、平面形や集落配置の変化が起こった時期である。周辺遺跡では、清六Ⅲ遺跡や伊勢ノ木遺跡でも、前代からの集落が継続して営まれた。清六Ⅲ遺跡では本遺跡同様、住居規模の縮小化や集落配置の変化が見られる。このほか、伊勢ノ木遺跡の東方500mの小保呂遺跡(44)でも散在した集落配置はうかがえる。

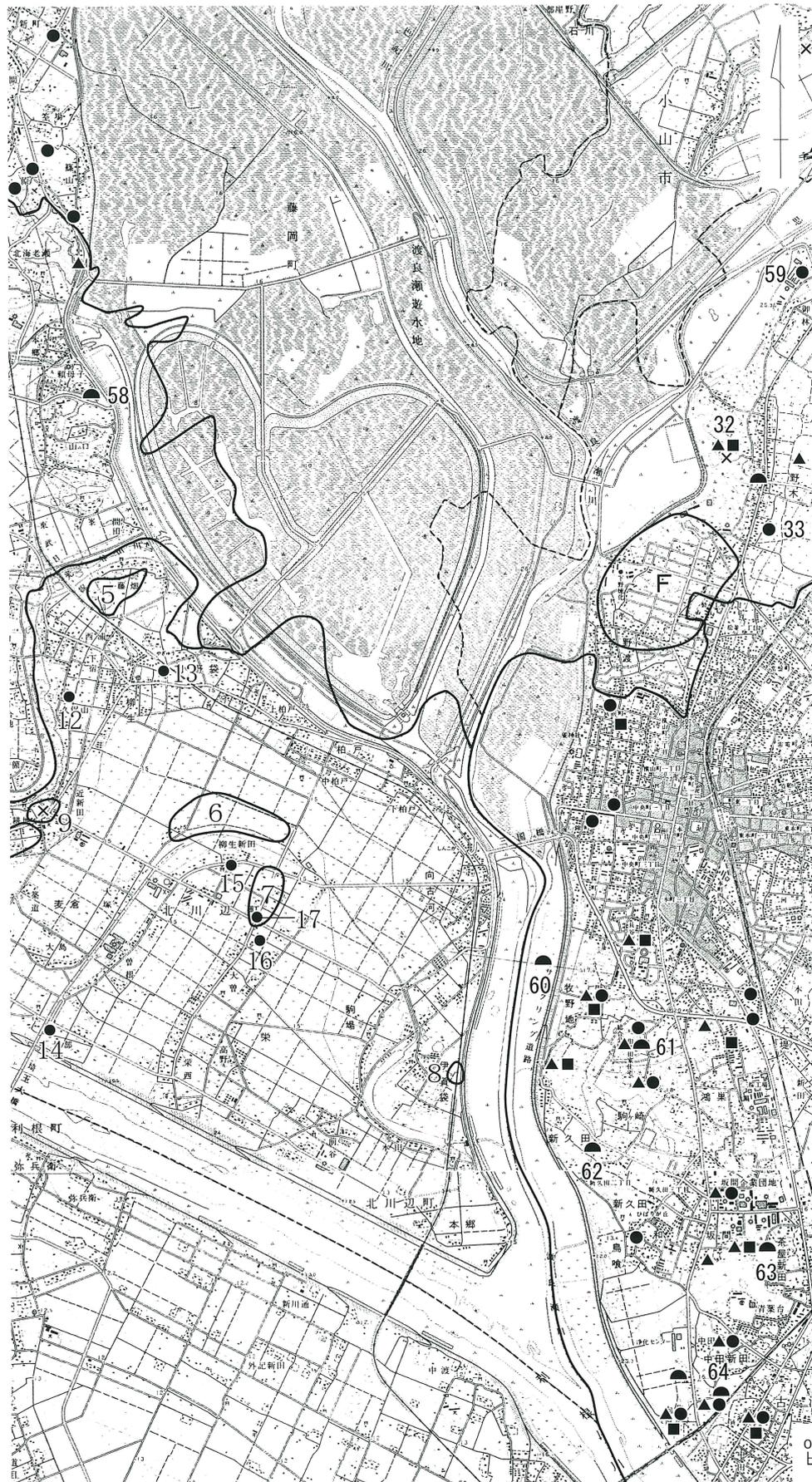
該期の生産遺跡としては、須恵器窯のほか、土師器焼成土坑を検出した遺跡をあげることができる。

本遺跡北方16kmには三龜山が控え、窯業開始期を7世紀末頃とする三龜山麓窯跡群が位置する。地理的にはもっとも近傍の窯跡であり、その分布域は本遺跡を越え、埼玉県南東地域にまでおよぶ。本遺跡では僅かではあるがその製品が確認されている。

また、猿島台地の清六Ⅲ遺跡、加須低地の水深遺跡では、土師器焼成坑が確認されている。



第5図 遺跡分布図(古墳~中・近世)



北川辺町内の遺跡

- 1 飯積遺跡
- 2 須賀遺跡
- 3 山越遺跡
- 4 麦倉遺跡
- 5 藤畑遺跡
- 6 新田（太田）遺跡
- 7 曾根遺跡
- 8 伊賀袋遺跡
- 9 倚井陣屋遺跡
- 10 鶴島
- 11 飯積
- 12 久保山
- 13 小野袋
- 14 土部
- 15 柳生新田
- 16 越中沼東
- 17 飯積三軒

第4図掲載遺跡

- 30 藤岡神社遺跡
- 32 清六Ⅲ遺跡
- 33 野木Ⅲ遺跡
- 41 島悪途遺跡
- 42 宇那根中世墓
- 43 大久保中世墓
- 44 小保呂遺跡
- 45 伊勢ノ木遺跡
- 46 岡西遺跡
- 47 城遺跡
- 48 新村下遺跡
- 49 花和田遺跡
- 50 沼田南遺跡
- 51 宝福寺遺跡
- 52 道明山古墳
- 53 筑波山古墳
- 54 舟山古墳
- 55 洲ノ上古墳
- 56 赤生田道満遺跡
- 57 上江黒遺跡
- 58 頼母子横穴墓群
- 59 杏林製薬工場内遺跡
- 60 頼政郭古墳
- 61 虚空蔵菩薩前古墳
- 62 元大六天古墳
- 63 東谷古墳
- 64 駒塚古墳
- 65 鶴ヶ塚古墳
- 66 永明寺古墳
- A 大越古墳群
- B 樋遣川古墳群
- C 村君古墳群
- D 今泉古墳群
- E 尾崎古墳群
- F 野渡古墳群

- ▲ 古墳時代前期
- 古墳時代中・後期
- 奈良・平安
- × 中・近世
- ◐ 古墳

第5図 遺跡分布図（古墳～中・近世）

平安時代も中頃（10世紀後半）になると、飯積遺跡は集落としての機能を終え、中世末期までこの地への人的介在は見られなくなる。時代背景としては、平安時代終末頃、北川辺町を含む埼玉県北東部は太田氏により太田荘が開発されていった。

中世は、その末期、飯積遺跡において区画溝や井戸跡が残された時代である。北川辺町内では、古くは貞永2（1233）年銘から、1360年代を分布の頂点とし、15世紀前半までの板碑が確認されている。

周辺遺跡では、合の川を挟んだ板倉町で、文和4（1355）年の紀年銘のある板碑を出土した宇奈根中世墓（42）や14～15世紀の大久保中世墓（43）、船山古墳の中世墓などが確認されている。このほか、宝福寺境内の塚（＝宝福寺遺跡（51））からは、14世紀中頃の古瀬戸蔵骨器や多数の経石が出土した。同寺では、13～15世紀の板碑27枚出土の記録が残っており、蔵骨器の年代と合致している。

また、猿島台地や藤岡台地側では、野木Ⅲ遺跡や清六Ⅲ遺跡、藤岡神社遺跡などで中世の掘立柱建物跡や堀跡、溝跡、土坑、井戸跡、地下式坑などが発掘調査によって検出されている。

近世は、飯積遺跡において、飯積鷲神社が勧請された時代である。鷲神社は、太田荘の総鎮守である鷲宮神社を祀ったもので、その創建は万治年中（1658～1661）を伝えるものが多い。鷲神社は町内の至るところに分布しており、この点からも北川辺町が太田荘域であったことが裏付けられる。

該期の周辺遺跡としては、飯積遺跡の西側に隣接し、合の川旧流路に位置する島悪途遺跡（41）で、17～18世紀の畠が検出された。合の川締め切り後の土地利用を考える上で重要である。

近代以降の北川辺

最後に、近代以降の北川辺町を概観して、歴史的環境を綴ることにしよう。

明治期以前の北川辺町域は、古河藩に属していた。明治初年の廃藩置県で、古河藩は古河県となり、明治4（1872）年には、本町域は埼玉県に属すること

となった。明治22（1890）年、町村制施行で川辺村（柏戸、向古河、駒場、本郷、栄、小野袋の一部）、麦倉村（麦倉、飯積、柳生、小野袋の一部）の二村が成立する。また、昭和5（1930）年には、渡良瀬川の河川改修により伊賀袋が編入となった。現在の町域が確定したのはこのときである。

このほか、北川辺町の歴史的環境を語る上で、足尾銅山鉍毒事件は避けて通れない。明治23（1890）年頃より、渡良瀬川上流の足尾銅山から廃棄される鉍毒が渡良瀬川を汚染し、洪水のたびに田畑の作物が枯死する被害をもたらした。被災者たちは、大挙上京して農商務省に銅山の操業停止を陳情し、国会でも、田中正造により鉍毒問題は議論されることとなった。明治31（1898）年には洪水が再び起こり、翌32年、被災者たちの第3回目の上京の際には、警官隊と衝突し、上州川俣事件を引き起こした。

そして明治39（1905）年、ついに渡良瀬・利根川の水量を調節する目的で、遊水池建設計画が立てられることとなった。大正2（1913）年、3,500haの渡良瀬遊水池は、14ヵ年の継続事業で誕生した。

以上、県境に位置し他県と接する北川辺町飯積遺跡の地理的、歴史的環境について概述してみた。

すでに繰り返し述べてきたが、北川辺町を含む加須・中川低地は考古学的データが乏しい地域である。この理由としては、加須低地に特有の関東造盆地運動の結果、遺跡が地中に埋没し、確認しづらいことがまず指摘される。また一方では、この認識が過度に繰り返され再生産された結果、新資料発見の機会を直接的、間接的に減らし、見かけ上の「空白」を作り出してきたのかもしれない。しかしながら、沖積地の発掘調査例は全国的に増加し成果を挙げている。加須低地や中川低地もこの例外ではないだろう。

飯積遺跡は、こうした加須・中川低地の遺跡イメージの転換を図る多大な成果をもたらした。考古学的なデータの乏しい当地域の、基準資料となっていくことだろう。

Ⅲ 遺跡の概要

1. 調査の方法

飯積遺跡の発掘調査は、第2次調査が平成15年9月22日から平成16年3月24日まで、第3次調査は平成16年4月8日から平成17年3月31日まで、第4次調査は平成17年4月8日から平成17年9月30日まで実施した。

第2次調査は、表土掘削後、遺構確認を行おうとしたが、遺構確認面からの湧水が激しく、確認作業に移れる状態ではなかった。そこで、調査区外周に排水用の溝を掘削したが湧水は収まらなかった。次に、グリッド杭に沿って水抜き用の溝を掘削して遺構確認面の排水を行い、遺構確認作業に入る事が可能となった。遺構確認作業を行った結果、プランを明確に掴むことができた住居跡は少なく、その存在はわかっていても、その範囲を明確に捕らえることができた住居跡は数軒であった。特に、調査区南東部

は全体が黒く、その中から土器が出土する状態であった。そこで、この地域は10mグリッドを5×5mに分割して掘り下げ、土層断面から遺構の確認を行った。他の地域は、水抜き用の溝の断面等を利用し、遺構確認を繰り返し行い、平面形の確認に努めた。

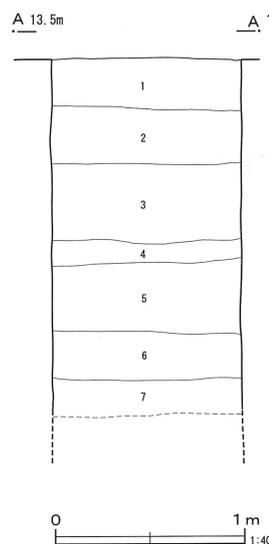
第3・4次調査は、第2次調査地点に比べ、周囲の地形が高くなるために調査区周囲にシートパイルを設置し、安全の確保を図った。また、シートパイルの倒壊を避けるために、遺構の掘り下げは一定の深さまでに限られた。特に、河川跡は河床の検出はできなかった。第3・4次調査も湧水が激しく、遺構確認後に遺構を壊す形態で十字の溝を掘削し、排水をしながら精査を行った。住居跡は実測・写真撮影後、貼り床を剥がし、ピットや下層遺構の確認に努めた。

2. 基本層序

飯積遺跡の基本層序は、第2次調査区内のL-6グリッド調査区壁際で観察した。

なお、第3・4次調査区では前述のとおり、周囲にシートパイルを設置したため基本土層の観察は不可能であった。

- 1 褐灰色土 酸化鉄を線状 炭化粒子・白色粒子少
- 2 褐色土 暗褐色粒子多 灰色粘土粒子 炭化粒子微
- 3 明黄褐色土 砂粒主体 下層に灰色粘土粒子 青灰色土を線状 (水のしみだした跡)
- 4 暗オリーブ色土 炭化粒子微 砂粒
- 5 オリーブ灰色土 粘土主体 炭化粒子 暗オリーブ色粘土少
- 6 暗オリーブ灰色土 粘土主体 炭化粒子 酸化鉄を線状
- 7 灰オリーブ色土 粘土主体 湧水



第6図 基本土層図

3. 遺跡の概要

(1) 周辺地形と遺跡の範囲

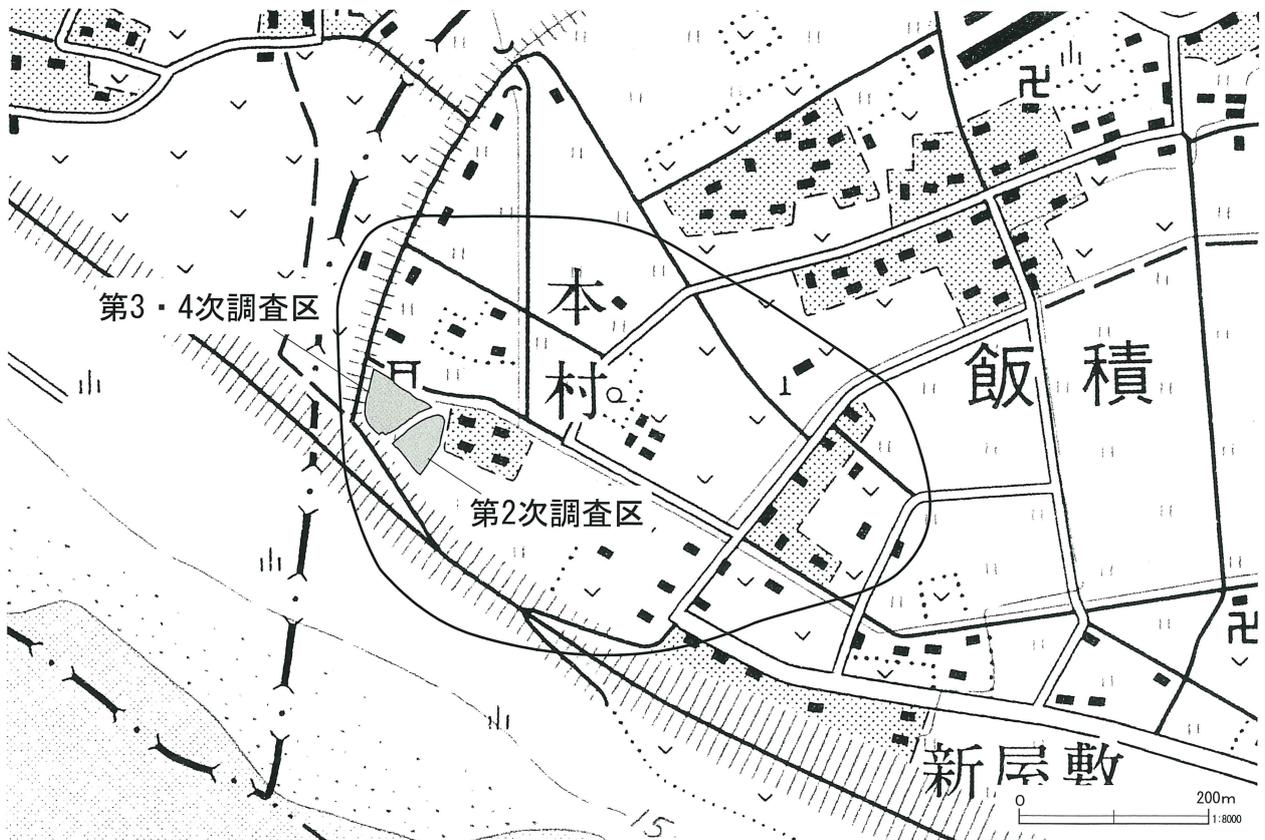
飯積遺跡は、埼玉県の北東端に位置する北川辺町に所在する。北川辺町は、南側を除く三方を他県と接しており、県境や町境は、河川によって区切られている。町の北側は、谷田川を境として栃木県下都賀郡藤岡町、東は渡良瀬川を境に茨城県古河市、西は合の川（利根川旧流路）跡を境に群馬県邑楽郡板倉町と接している。また、南西に位置する加須市と北埼玉郡大利根町とは、利根川を隔てて接している。

飯積遺跡は、北川辺町でも南西端に位置しており、利根川と合の川の分岐点である標高13.5mの自然堤防上に立地している。遺跡の範囲は、西側は群馬県との県境まで、南側は利根川堤外まで伸びた東西約600m、南北約450m、面積にして約270,000m²である（第7図）。今回報告するのは、飯積遺跡の第2～4次調査で、遺跡範囲の最西端に位置している。

発掘調査区は、町道1229号線を境にこれより東側を「第2次調査区」、西側を「第3・4次調査区」と呼称した。調査面積は、第2次調査区が3,000m²、第3・4次調査区は4,900m²である。

調査前の第2次調査区は、水田が一面に広がっており、第3・4次調査区は、水田の中に飯積鷲神社がたたずむ景観であった。両調査区に広がる水田面の標高は15.0mほどで、鷲神社境内はこれより高い標高15.8mの丘状となっていた。

第3・4次調査区の北側には町道1235号線が東西に走行し、合の川の堤防に向かって上り坂となっている。堤防頂部の標高は18.2mほどで、水田面との標高差は3.0mほどである。また南面する利根川堤防の頂部は標高27.8mであり、水田面との標高差は13mほどである。



第7図 遺跡の範囲

(2) これまでの調査

飯積遺跡周辺は、古くから土器が採集される場所として知られていた。第2次調査区と第3・4次調査区の間、町道1229号線が利根川堤防とぶつかる地点に、飯積樋管が存在した。昭和34（1959）年、これより下流400mにあった樋管を移設する際に、土器が多数出土した。これが飯積の地に遺跡の存在が認識された初めての年である。

飯積遺跡の第1次調査は、昭和54（1979）年に、飯積農業研修センター建設に伴い、北川辺町教育委員会により実施されている。第1次調査区は、第3・4次調査区の中央付近に位置し、L字型のトレンチを掘削している（第8図）。調査面積は約5m²と狭いが、標高12.6mまで掘り下げており、第197号

住居跡の床面を掘り抜いた形となる。

このときは調査面積が狭く、住居跡の存在を確定するには至っていないが、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器、須恵器が完形品で多数出土し、土層断面には炭化物層が確認された。

第2～4次調査は、大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴い、（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が実施された。調査期間は平成15年10月から平成17年9月までの2年間である。その内訳は、第2次調査が平成15年10月～平成16年3月、第3次調査は平成16年4月～平成17年3月、第4次調査は平成17年4～9月となる。

第2次調査区と第3・4次調査区は、同じ自然堤防上に形成された同一の集落である。しかしながら、



第8図 調査区全体図

報告では便宜的に両調査区を分け、第2次調査区の成果を第333集『飯積遺跡Ⅰ』に、また、第3・4次調査区の成果を第334集『飯積遺跡Ⅱ』に収めた。

(3) 第2次調査区

第2次調査区で検出された遺構は、竪穴住居跡92軒、土坑14基、井戸跡23基、溝跡7条である。遺構全体としてみると重複状況が著しいが、調査区南東部には分布の空白を生んでいる。

竪穴住居跡は92軒検出されている。もっとも古いものは5世紀第Ⅳ四半期で、第54・55・78号住居跡がこれに該当する。一方、もっとも新しい住居跡は第25号住居跡で10世紀前半に位置付けられる。

第3・4次調査区では、5世紀第Ⅲ四半期(第201号住居跡)から10世紀前半(第163号住居跡)までの竪穴住居跡が確認されていることから、遺跡総体としては、5世紀第Ⅲ四半期から10世紀前半までの集落と捉えられる。

竪穴住居跡の分布や重複状況、平面形や規模、主軸方向などを概観すると、古墳時代後期(5世紀後半から7世紀前半)と奈良時代(8世紀初頭)以降とであり方が異なる。両時期の傾向を抽出すると、古墳時代後期は分布密度が高く、同時期での重複状況が著しい。一方、奈良時代以降は分布密度が低く、同時期での重複をほとんど見せなくなる。

また、古墳時代までの竪穴住居跡の分布は、調査区の南西部から北東部へ延び、集落東側の限界がうかがえるのに対し、奈良時代以降は、第27・28号住居跡などに見られるように、東側へ集落域を拡大している。また、平面形や規模は、古墳時代後期が大型・方形であるのに対し、奈良時代以降は小型・長方形となり、真北だった主軸方向も、西にやや振れるようになる。

本遺跡のカマドの特徴を示すと、北壁に設けられたものが圧倒的に多いこと、煙道部の長大なカマドが見られること、また煙道部や煙出しが未崩落のものが認められることなどが指摘できる。煙道部の長い住居跡には、第30・33・36・37・54・56・59号住

居跡などが見られ、時期は5世紀第Ⅳ四半期～6世紀第Ⅰ四半期に特に集中する。

またこのほかの特徴として、土器をカマド袖構築材や支脚に用いた例が見られた。土器による袖部の補強は、第4・53・60・64・87・91号住居跡で見られた。構築材には、いずれも土師器甕を倒立させて用い、①芯材として袖内部に埋め込むもの、②袖先端に据えるもの、の二態が確認されている。

また、第77号住居跡ではカマド掘り方が確認された。第3・4次調査区では比較的多出しているカマド掘り方は、本調査区では唯一の事例である。

また、第79号住居跡では、住居跡に多数の土器が残されていた。床面に残っていた土器は、土師器坏・高坏・甕・甑・壺など実測個体だけでも34個体出土している。中には大型の土師器高坏2個体を含んでおり注目される。

また、このほか、第51号住居跡の床面では、土玉8点が、白玉、紡錘車を伴って出土している。

土坑は14基確認されており、分布に偏りは見られない。古墳時代後期の土器が出土した第7号土坑や、竪穴住居跡の床面や覆土形成過程に掘り込まれた第10・11号土坑や第12号土坑などのほか、井戸跡や溝跡と同じ覆土をもつ土坑など、時期は古墳時代後期から中・近世までのものが見られる。第12号土坑ではその周辺から白色粘土が検出されていることから、粘土を採掘した穴と推測される。

井戸跡は分布に偏りが見られた。第14・15号井戸跡を除く21基の井戸跡は、第1号溝跡を区画溝と捉えたときの区画内側に濃密に分布する。いずれの井戸跡も覆土は、灰色粘質土を基調としており、第1号溝跡の覆土とよく似ることから、両者の構築時期は、大きな隔たりはないものと考えられる。第2号井戸跡の覆土上層からは、かわらけ11点が一括廃棄の状態出土している。

溝跡は7条確認されている。第1号溝跡は区画溝と思われる。調査区南側で確認された第2・3号溝跡は、第1号溝跡からほぼ直角に派生しており、両

者の関係がうかがえる。第1号溝跡の覆土からは、16世紀のかわらけや15世紀後半から16世紀頃の摺鉢や捏鉢、焙烙や陶磁器、砥石などが出土した。

第2次調査区の出土遺物は、土師器がその大半を占め、これに須恵器が少量加わる。器種としては、土師器坏・埴・盤・高坏・甕・甗・壺・須恵器坏身・坏蓋・高坏・甕・甗・提瓶などが見られる。土師器は、北武蔵地域のものに混じり、比企地域、栃木県南部、茨城県西部、下総地域の土器が含まれており、出土土器からも県境に位置する北川辺町という地域的特性がうかがえる。

また、須恵器は、南比企産、末野産、太田産、秋間窯、藤岡産、新治産などが見られ、僅かながら灰釉陶器が出土した。

このほか、摺鉢・捏鉢・かわらけなどの土器、青磁、天目茶碗などの中世陶磁器や土錘・土玉・支脚・土製円板などの土製品、紡錘車・砥石などの石製品、勾玉・管玉・白玉などの玉類、耳環・刀子・鉄鏃などの金属製品が出土した。

(4) 第3・4次調査区

第3・4次調査区では、竪穴住居跡152軒、土坑28基、井戸跡8基、溝跡10条、ピット37基などのほか、鷲神社境内と一致する方形区画（盛土造成部と区画溝）や、古墳時代後期の流路跡を確認した。また調査前に残っていた、鷲神社本殿基壇部の調査も併せて行った。

遺構は全体として見ると、南側に分布密度が高く、北側ほど密度が低い。この分布の偏りを形成した要因は、古墳時代の流路跡が存在したためである。

流路跡は調査区北側で確認された。これを埋めた主な土は、「第一次堆積層」としたしまりの強い黄褐色粘質土の一群と、「第二次堆積層」としたしまりの弱い褐色粗粒砂に大別される。前者は、5世紀第Ⅲ四半期から6世紀第Ⅱ四半期までの土器やチャート転石を含んでおり、後者は榛名起源の角閃石安山岩を含んでいる。

流路跡は、土層の堆積状況から、初め穏やかな堆

積環境にあり、その後6世紀後半頃の河川の氾濫で埋まったと判断された。土層に含まれた礫は、6世紀後半頃に渡良瀬水系から利根川水系への変化が起こったことを示している。また、第一次堆積層では立ち上がりからやや離れた斜面地に、5世紀第Ⅲ四半期から6世紀第Ⅱ四半期頃の土師器が、東西方向に広がって大量に出土した。

このほかの出土遺物として、須恵器や土玉、支脚などの土製品、白玉、勾玉、有孔円板、砥石などの石製品、鉄製品などが見られるが、出土比率は全体の1%程度である。これらの遺物は、その出土状況から、生活什器の日常的な廃棄行為と儀礼を含む廃棄行為との複合した姿と判断した。

一方、第二次堆積層では、地滑りや噴砂といった地震の痕跡を確認した。地滑りは調査区の東西にわたって広範囲に検出された。第135号住居跡では、地滑りとこれに並行する噴砂を確認している。地震の時期を特定することはできないが、遺構との重複関係から、7世紀第Ⅲ四半期以降、近世初頭までの間と判断される。

竪穴住居跡や土坑の分布は、この流路跡の埋没と密接に関連している。5世紀第Ⅲ四半期に始まった集落は、流路跡の埋まりきる6世紀後半までは、調査区南側の自然堤防上を居住域とし、流路跡が埋まると7世紀頃から居住域を拡大していった。

北側の第二次堆積層に掘り込まれた住居跡には、カマド掘り方を設けたものが多数見られた。掘り方は、カマド構築部分にあらかじめ土坑を掘削し、しまりの強い土を詰め込み、ここへ煙道および煙出しを設けている。しまりの弱い砂層に煙道や煙出しを掘り込むための工夫であろう。

このような工夫に加え、地山であるしまりの弱い砂層が竪穴住居跡を比較的短期間で埋めたこともあり、煙道や煙出しの残存状況は非常に良く、天井部が未崩落の住居跡も数多く見られた。第111・115・135・141・150・153号住居跡は、いずれもカマド掘り方を設けた住居跡である。第111号住居跡や第141

号住居跡では崩落が見られず、煙道と煙出しの様子が当時の状態のまま現われた。

また、本調査区においてもカマド袖部に構築材として土器を用いたものが多数見られた。袖部の先端に逆位で据えられた例が多い中で、袖部の芯材として、左右の袖に土師器甕や甑を3個体ずつ用いた第115号住居跡は特異である。

以上のように、カマド掘り方の敷設、カマド袖の補強をした住居跡は、調査区内の全域に見られるが、脆弱な基盤をもつ流路跡堆積層中に掘り込まれた住居跡で特にその出現率が高い。ここに低地に集落を営むための工夫を見出せるだろう。

このほか、支脚として土師器高坏や土師器甕が転用されている例が見られた。甕は完形品をそのまま使う例と、胴部下半のみが使われる例の二者が見られた。

土坑は28基確認され、分布は調査区北側に集中する。第二次堆積層では、覆土に炭化物や焼土ブロックを多量に含み、掘り込み縁辺が被熱赤変している

土坑を8基確認した。第16・17・18・29・31・36・39・40号土坑がこれに該当する。形状は様々であるが、長円形や隅丸長方形など、一方に長軸をもつ形状に特徴がある。出土遺物に乏しく、焼成の対象は特定できないが、第18号土坑は、羽口や鉄滓が見られた。

井戸跡は8基検出されている。時期は中世末から近世と思われ、分布に偏りは見られない。第36・37号井戸跡ではシガラミが検出されており注目される。

溝跡は10条検出されている。第9b号溝跡で出土した16世紀末頃のかわらけ以外の遺物は見られない。第13・15号溝跡を除けば、溝跡の覆土は、第9b号溝跡と同質であることから、溝跡の大半は中世末から近世のものと思われる。

第8号溝跡と第9号溝跡は、総体として捉えたとき、鷲神社の境内範囲と一致し、区画溝の可能性はある。ピットは37基検出されている。

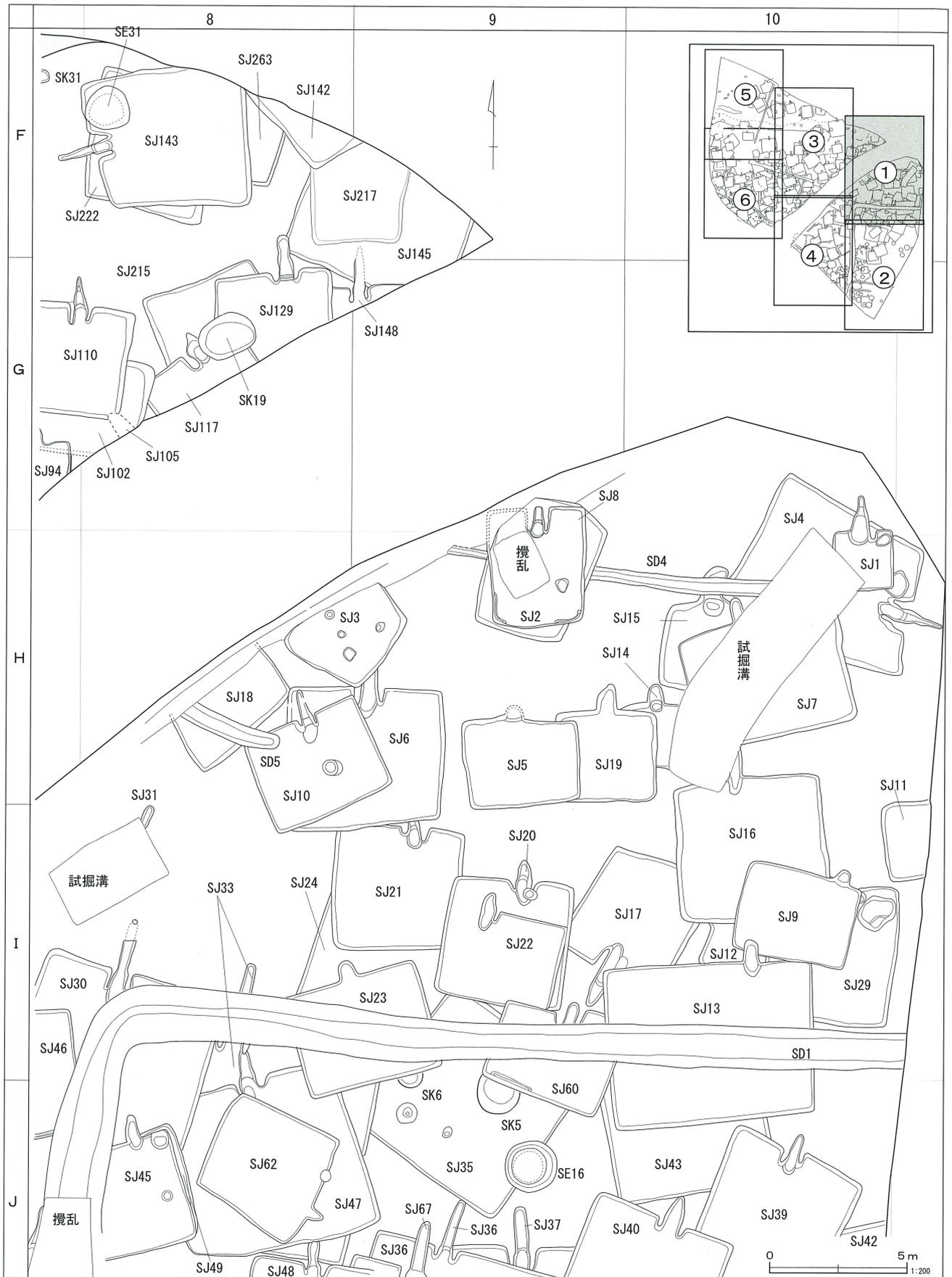
分布に偏りはなく、遺物は出土していないため時期を特定できないものが多い。第二次堆積層形成過程に掘り込まれたピットもあり、洪水直後の河川際に生活の痕跡を残している。

第3・4次調査区出土遺物の内容は、第2次調査区とほぼ同じである。本調査区では鉄滓が多く出土したのが特徴的である。

勾玉は2点、遺構外から出土した。また、耳環は第97号住居跡の覆土中から出土している。



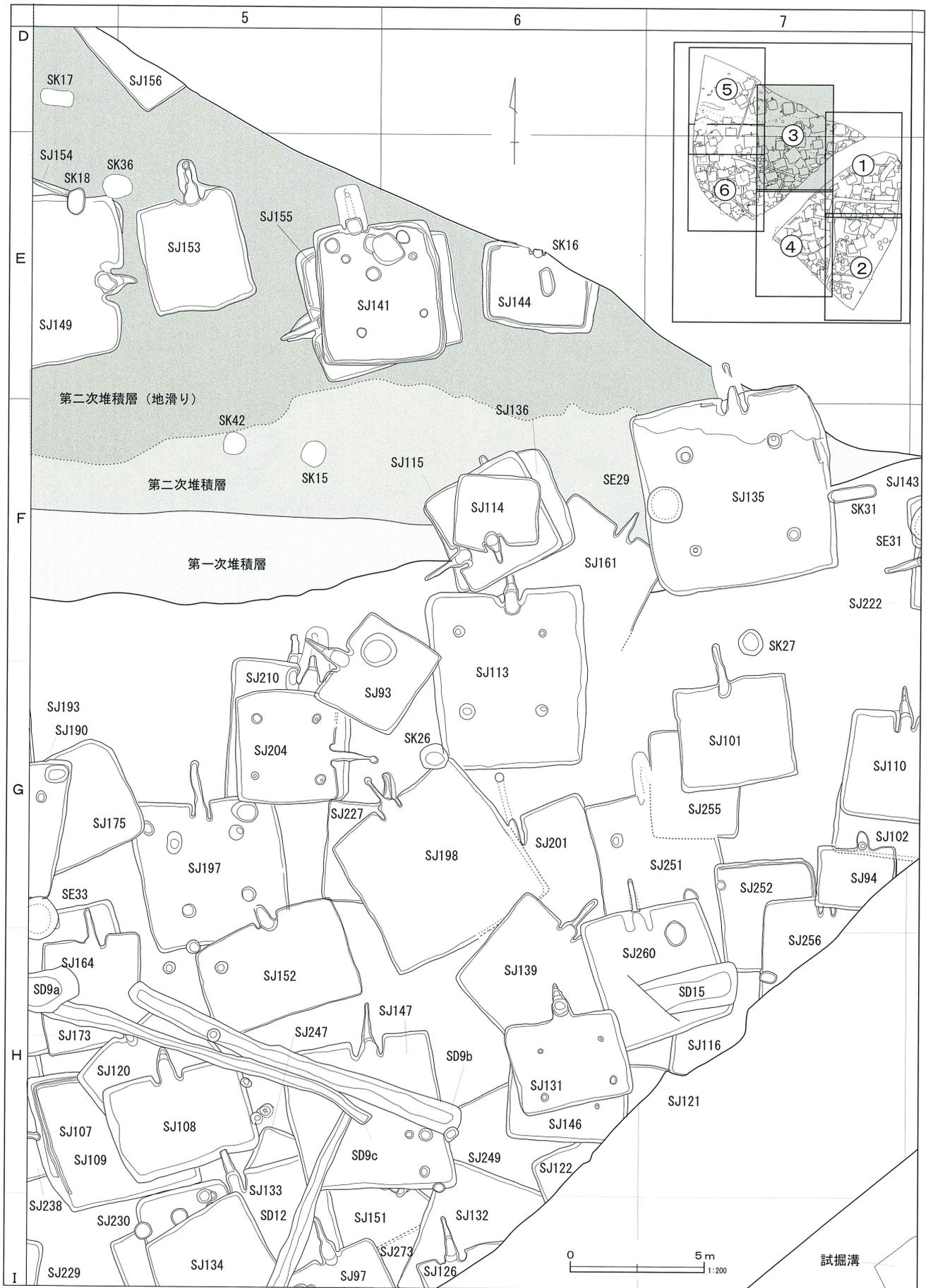
第9図 調査区と鷲神社



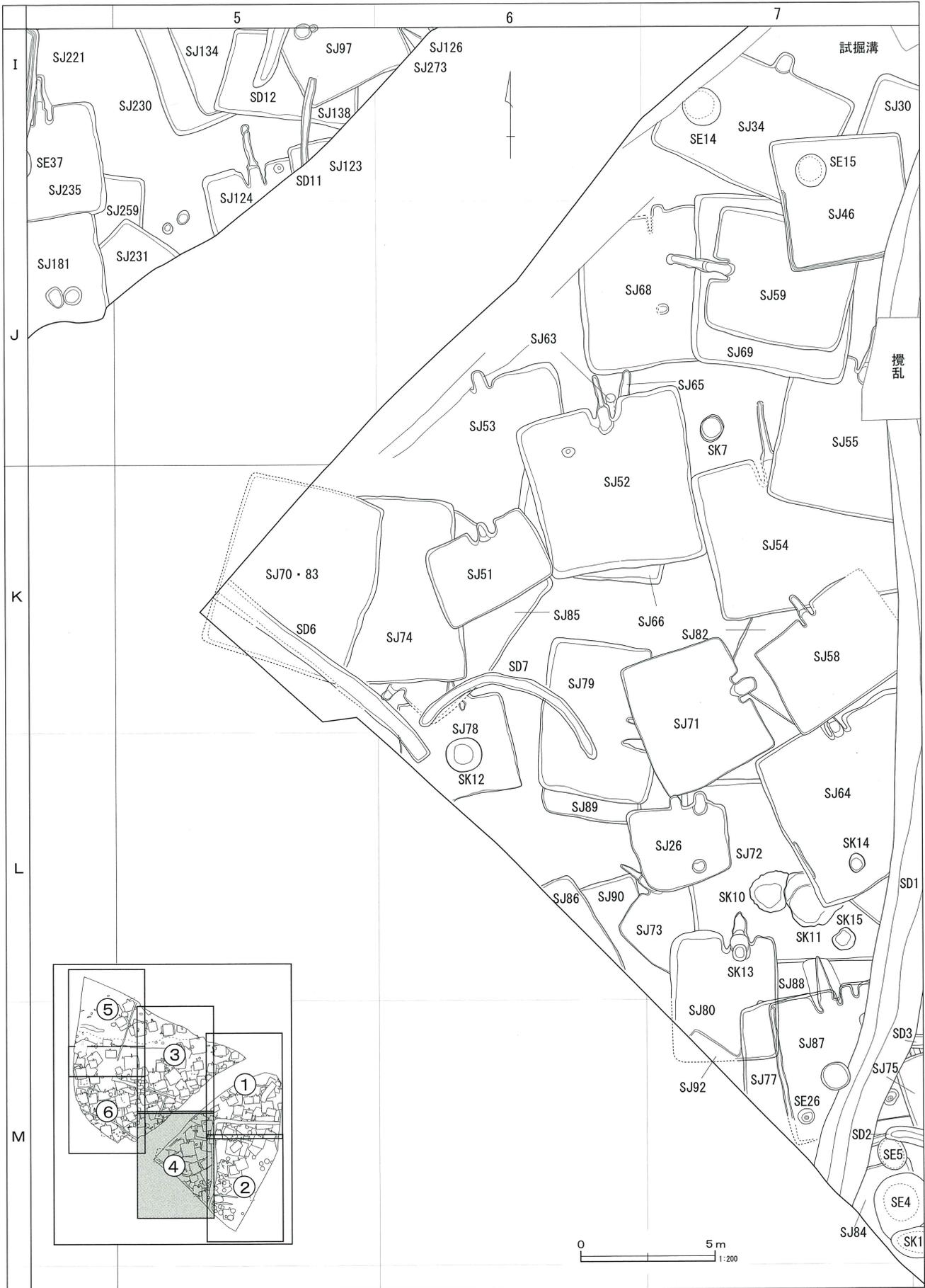
第11図 全体図①



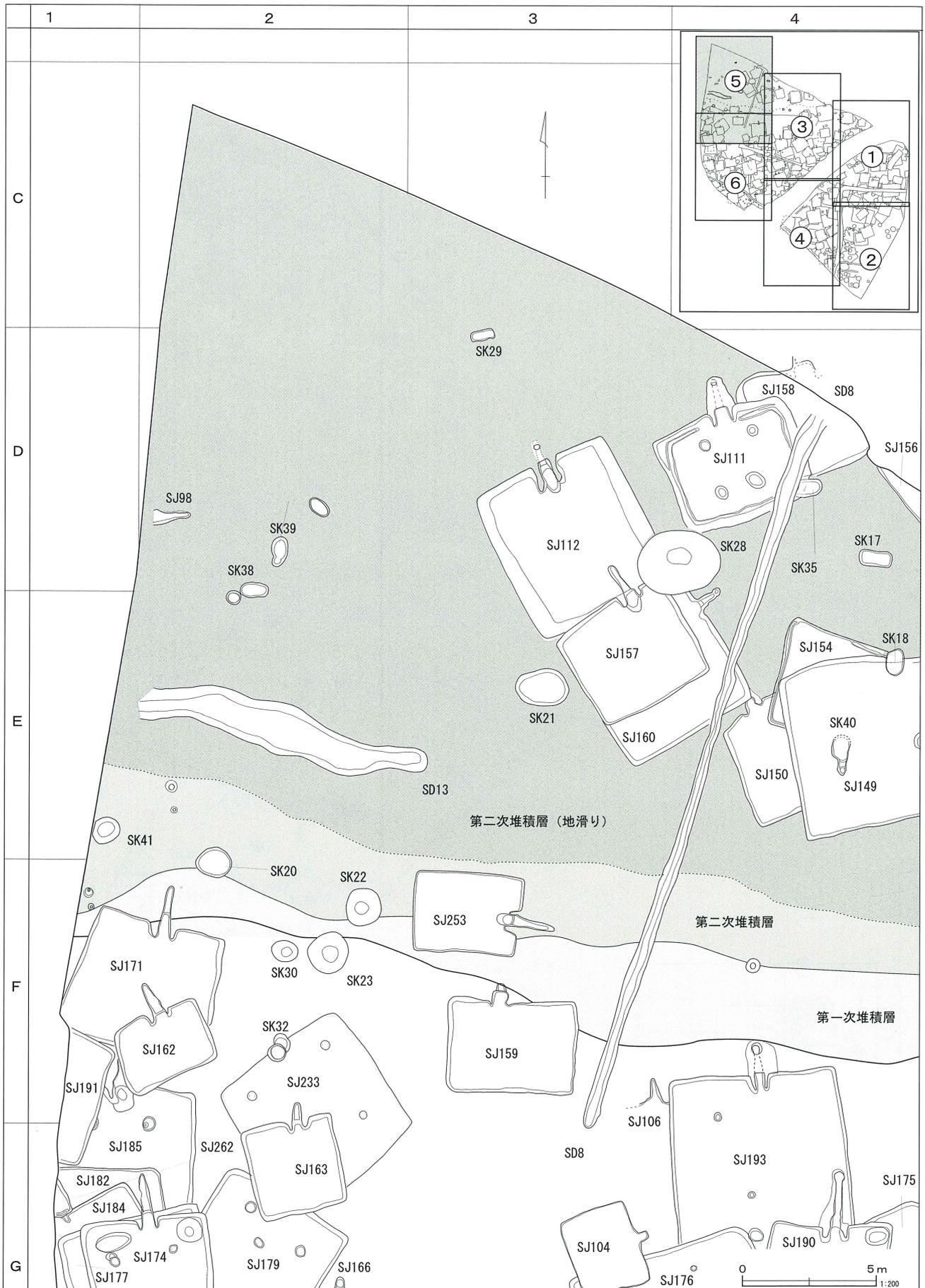
第12図 全体図②



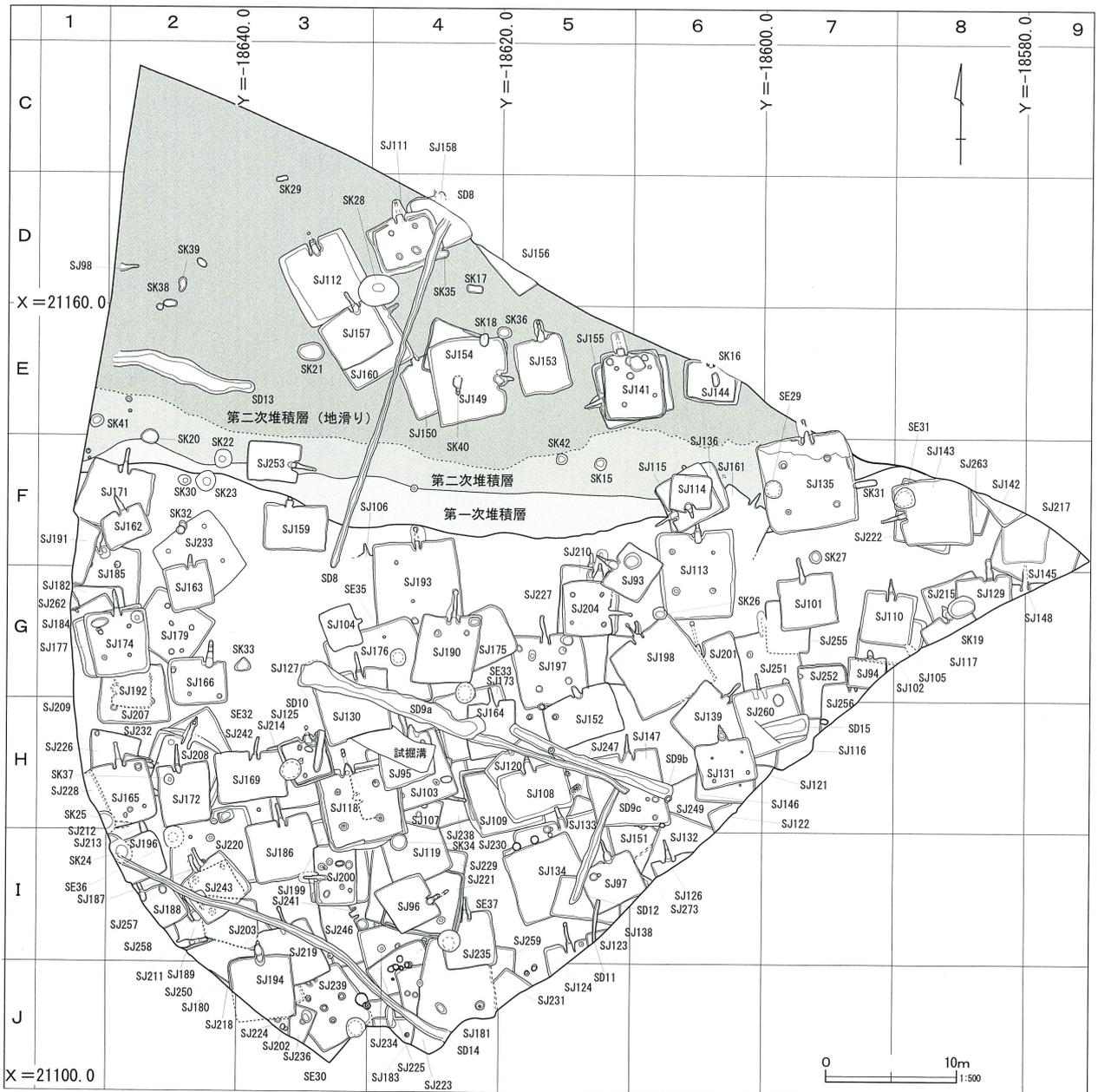
第13図 全体図③



第14図 全体図④



第15図 全体図⑤



第17図 第3・4次調査区全体図

Ⅳ 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

第3・4次調査では、竪穴住居跡が152軒検出されている。最古の住居跡は、5世紀第Ⅲ四半期であり、第201・206・247号住居跡がこれに該当する。全調査区内でもっとも古く、飯積遺跡の集落形成がこの時期から興っていることがわかる。

住居跡は南側ほど分布密度が高く、北側では低い。この分布の粗密は、北側で確認された流路跡の埋没と密接に関連している。流路跡は、6世紀後半に砂層によって完全に埋まっているが、これ以前は流路跡南側の自然堤防を居住域とし、7世紀になって本格的に、北側の砂層中へ居住域を広げていく。

この砂層中に掘り込まれた住居跡には、カマドに掘り方を設けたものが多い。掘り方は、カマド構築部分にあらかじめ土坑を掘削し、この中にしまりの強い黄褐色粘質土を詰め込み、煙道および煙出しを設けた。第111・115・135・141・150・153号住居跡などで見られる。しまりの弱い砂層中に煙道や煙出しを掘り込むための工夫であろう。

第111・141号住居跡では、煙道や煙出しの崩落が見られず、カマド機能時の状態が現われた。

また、土器でカマドを補強した例も多い。袖部先端に土器を逆位で据えた例が多い中で、第115号住居跡は、袖部の芯材として、左右の袖に土師器甕や甑を3個体ずつ用いており特異である。

このほかカマドでは、支脚として土師器高坏や土師器甕が転用されている。甕は完形品をそのまま使う例（第131号住居跡）と、胴部下半のみ（第260・147号住居跡）が使われる例が見られた。

本遺跡からは、土製支脚も出土しているが点数としてはわずかで、支脚は様々な土器を必要に応じて選択している。

第93号住居跡（第18・19図）

調査区中央部北東寄り、F・G-5・6グリッドに位置する。第113・204・210号住居跡と重複し、

新旧関係はいずれの住居跡よりも新しい。

平面形は長方形で、主軸方向はN-57°-Wである。規模は東西軸3.78m、南北軸3.30m、確認面からの深さは0.24mである。床面はカマド前面から中央部にかけて明瞭に貼り床が残っていた。

カマドは西壁やや南寄りに設けられる。袖部は両側が確認され、壁からの残存規模は、左袖27cm、右袖45cmである。燃烧部は西壁を大きく切り込み、底面は床面より10cmほど低く掘り窪められる。燃烧部の規模は、奥行き115cm、幅50cmで、煙道部とは急傾斜で移行する。煙道部底面は外側へ緩やかに上昇し、壁外へ83cm延びる。

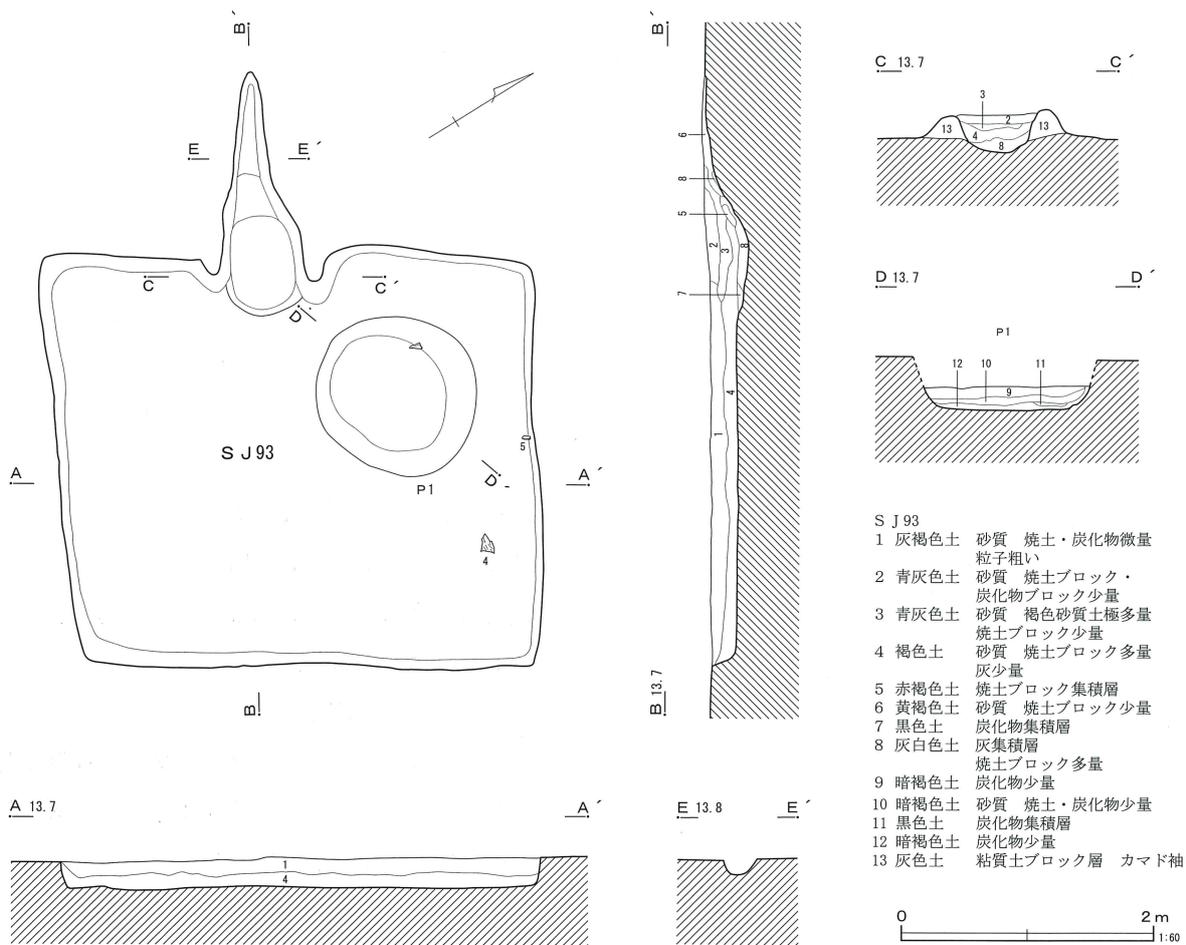
カマド以外の施設としては、カマドの右側で土坑が確認されている。床面では掘り込みを確認できず20cmほど掘削した高さで検出した。床下土坑とも思われたが、覆土に炭化物や焼土ブロックを含んでおり、集積層も見られることから、住居機能時には開口していたと思われる。規模および平面形は、長径132cm、短径122cmの円形で、床面からの深さは40cmである。

遺物は床面および覆土中から、土師器坏・甕、須恵器坏・甑、砥石が出土した。4は須恵器甑で、口縁と胴部下半の同一個体の破片である。胎土に白雲母を多量に含む新治産の土器で、床面から出土している。砥石は2点出土しており、5は有孔砥石で覆土最上層から出土している。6は砂岩製の砥石で、一部に自然面を残し、擦痕が二面に観察され、断面形が三角形となる。

出土遺物から、時期は8世紀前半と思われる。

第94号住居跡（第20・21図）

調査区東、G-7グリッドに位置する。第102・256号住居跡と重複し、新旧関係は第102号住居跡より古く第256号住居跡より新しい。カマドを含む住居跡北側は第102号住居跡に壊されるほか、南東側



第18図 第93号住居跡

は調査区域外におよび未検出である。

平面形は東西に長い長方形で、主軸方向は $N-0^\circ$ である。規模は長軸2.93m、短軸2.28m、確認面からの深さ0.25mである。床面はカマド前面を中心に貼り床が貼られていた。

カマドは北壁やや東寄りに設けられる。前述のように、遺構上部は削平されほとんど残っていない。袖部は両側ともに確認できなかった。燃焼部と煙道部に境界はない。壁外の位置で、床面を5cmほど掘り窪めた直径30cmの浅いピットが検出された。炭化物、灰を含む黒色土が堆積していたことから、この位置が燃焼部と思われ、壁外におよぶ構造であったことがわかる。

遺物は床面や覆土中から出土しており、床面出土遺物が比較的多い。内容としては土師器杯・甕、須恵器甕・鉄製品などである。1は有段口縁杯で口径

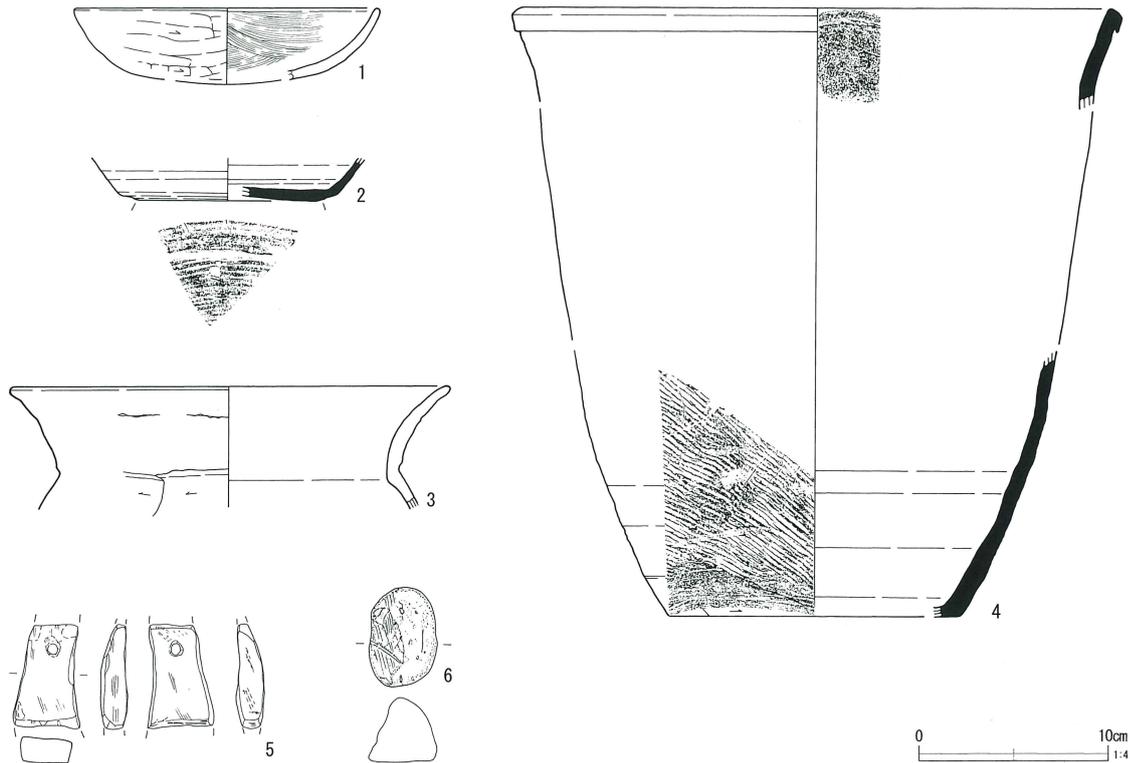
11.5cm、2は須恵器甕で胎土に灰オリーブ色の粒子を含む。ともに貼り床から出土し、位置も近接している。住居跡の時期は、1の土器をもって7世紀第IV四半期と見ておきたい。

第95号住居跡 (第22・23図)

調査区中央、H-4グリッドに位置する。第103・107・118・127・238号住居跡と重複し、新旧関係はいずれの住居跡よりも新しい。北西部から中央部は試掘溝によって床面を大きく壊されている。

平面形は東西に長い長方形で、規模は東西軸4.15m、南北軸3.5m、主軸方向は $N-20^\circ-W$ である。確認面からの深さは0.48mで、床面はカマド周辺に貼り床が貼られていた。

カマドは北壁東寄りに設けられ、方位は $N-1^\circ-W$ である。袖部は右袖のみ確認され、壁からの残存規模は33cmである。燃焼部は北壁を70cmほど壁



第19図 第93号住居跡出土遺物

第2表 第93号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	残存(%)	タイプ	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(16.2)	3.8	—	29.7	10	栃南		普通	にぶい褐		
2	須恵器	坏	—	2.3	(5.0)	30.4	10	南比企		普通	灰		
3	土師器	甕	(23.0)	6.4	—	101.6	5	茨西	角	良好	にぶい橙		
4	須恵器	甗	(31.0)	32.1	(15.3)	299.4	5	新治	雲	普通	灰	内面叩き痕あり	
5	石製品	有孔砥石	長5.3幅3.6厚3.4重25.0								灰白	軽石製	235-1
6	石製品	砥石	孔径0.5×0.6長5.5幅3.5厚1.3重34.7								灰白	砂岩製	235-2

外へ切り込み、底面は床面を5cmほど低く掘り窪めており、手前側で被熱箇所が確認された。この位置までを燃焼部とすると、奥行きは100cm、幅は60cmである。燃焼部内は、下部から確認面付近まで非常に良く焼け、赤変硬化している。煙道部先端には燃焼部底面と30cmほどの段差が確認された。煙出し穴の底面と思われ、煙道部底面と一致せず、これより高く掘り込まれている。両者はわずかな空間で接続していたのであろう。

遺物は床面および覆土中から、土師器坏・甕、須恵器坏・甕・蓋などが出土した。1・2はカマド周辺で出土しており、1はカマド右袖上部で、2はカマド右脇の貼床上から出土した。

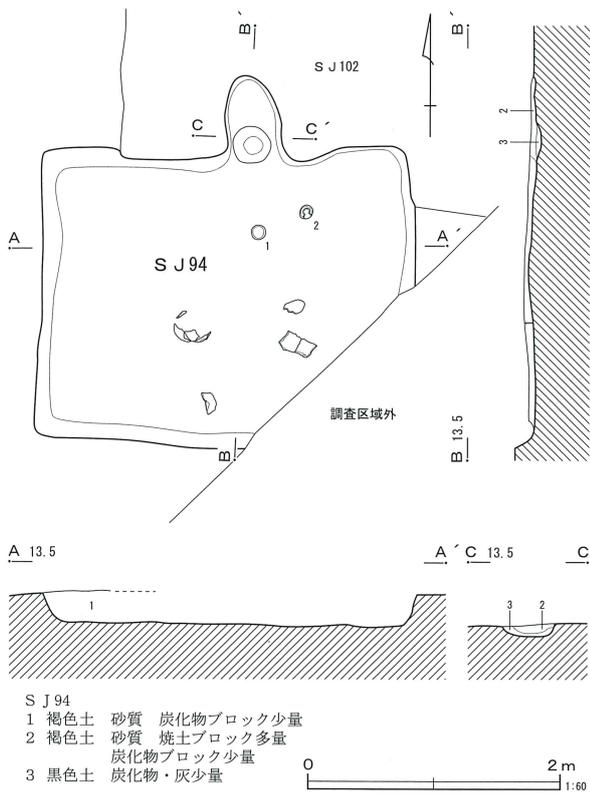
時期は出土遺物から9世紀に位置づけられよう。

第96号住居跡 (第24・25図)

調査区南側、I-4グリッドに位置する。第119・221・229・234号住居跡と重複し、新旧関係はいずれの住居跡よりも新しい。

平面形は方形で、主軸方向はN-60°-Eである。規模は東西軸で3.90m、南北軸で3.68m、確認面からの深さ0.25mである。床面は、カマド前面においてのみ貼り床が確認され、直上には炭化物を多量に含む黒色土が厚く堆積していた。

カマドは東壁の南寄りに設けられる。袖部は両側で確認され、壁からの残存規模は、左袖55cm、右袖40cm、構築土には黄褐色粘質土ブロックを含む黄灰



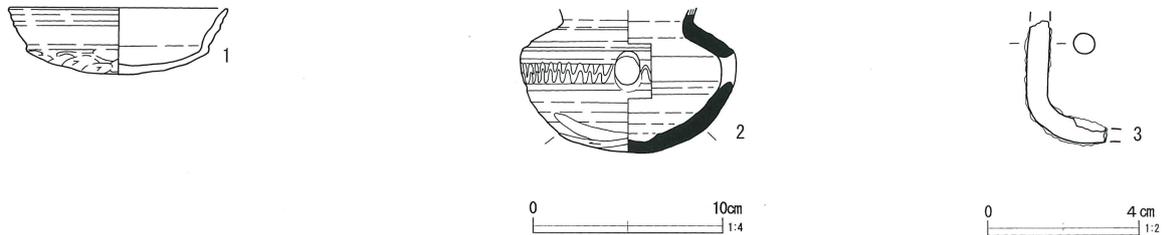
第20図 第94号住居跡

色砂質土（6層）が用いられている。燃焼部はほぼ壁内に収まり、20cmほどの明瞭な段差をもって煙道部へ接続する。底面は床面を10cm以上低く掘りこんでおり、浅いピット状となる。規模は、奥行き200cm、幅35cmで底面には炭化物を集積させていた。

煙道部は天井が残存しており、燃焼部との接続の過程で段差が二段設けられていた。天井および底面は外側へ向かってやや上昇しており、壁外に向かって124cm延びる。煙道部先端では、確認面において煙出し穴が検出された。煙出し穴は、平面形が40×23cmの長円で、ほぼ垂直に掘り込まれている。

遺物は、覆土から土師器坏・高坏、須恵器蓋などが出土している。出土遺物の時期は、6世紀前半～8世紀代のもので見られたが、遺構の重複関係から推すなら、住居の時期は1が示す8世紀代であり、2・3は他遺構からの混入と見るべきであろう。

第97号住居跡（第26・27図）



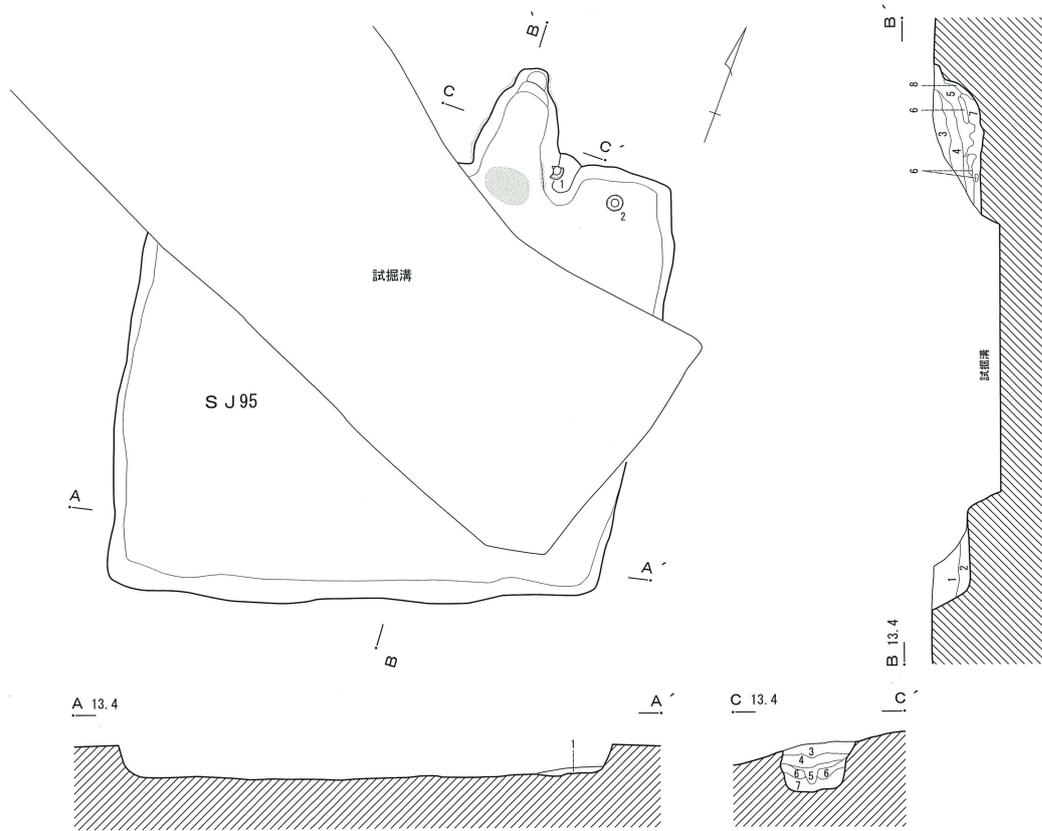
第21図 第94号住居跡出土遺物

第3表 第94号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	残存(%)	タイプ	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	11.5	3.5	—	89.9	75	埼玉	雲、針	普通	浅黄	内外面黒斑	161-1
2	須恵器	甕	—	7.6	—	339.6	60	藤岡か		不良	灰オリーブ	孔径1.3×1.5	
3	鉄製品	不明	長(3.3)幅径0.5重6.8									棒状 銅合金製か	237-2

第4表 第95号住居跡出土遺物観察表（第23図）

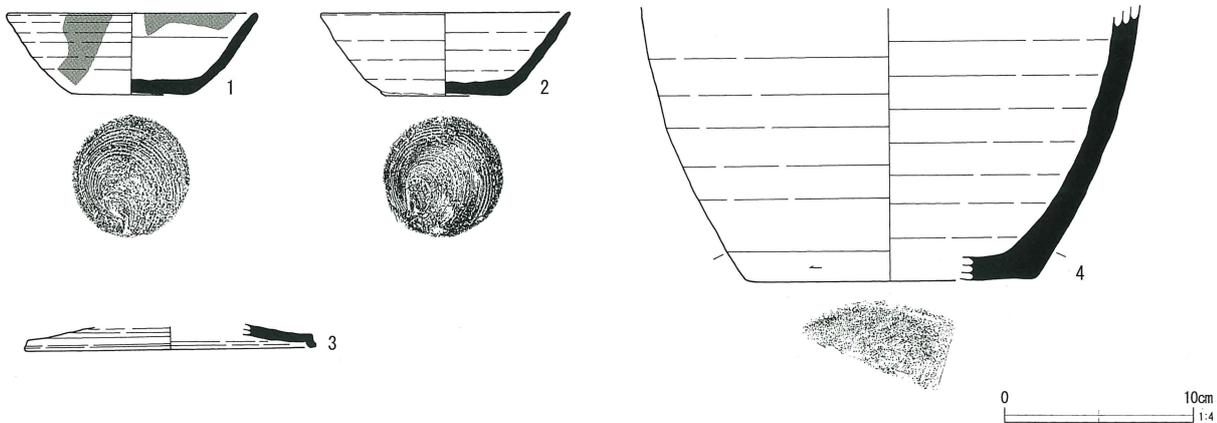
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	残存(%)	タイプ	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(13.2)	4.2	6.2	121.5	55	太田		不良	灰	カマド右袖上 漆付着	161-2
2	須恵器	坏	13.2	4.4	6.4	173.6	100	太田		普通	灰白	カマド右脇 漆付着	161-3
3	須恵器	蓋	(15.4)	1.2	—	18.3	5	南比企	雲、針	普通	灰		
4	須恵器	甕	—	14.5	(14.8)	349.7	5	金山か		普通	灰		



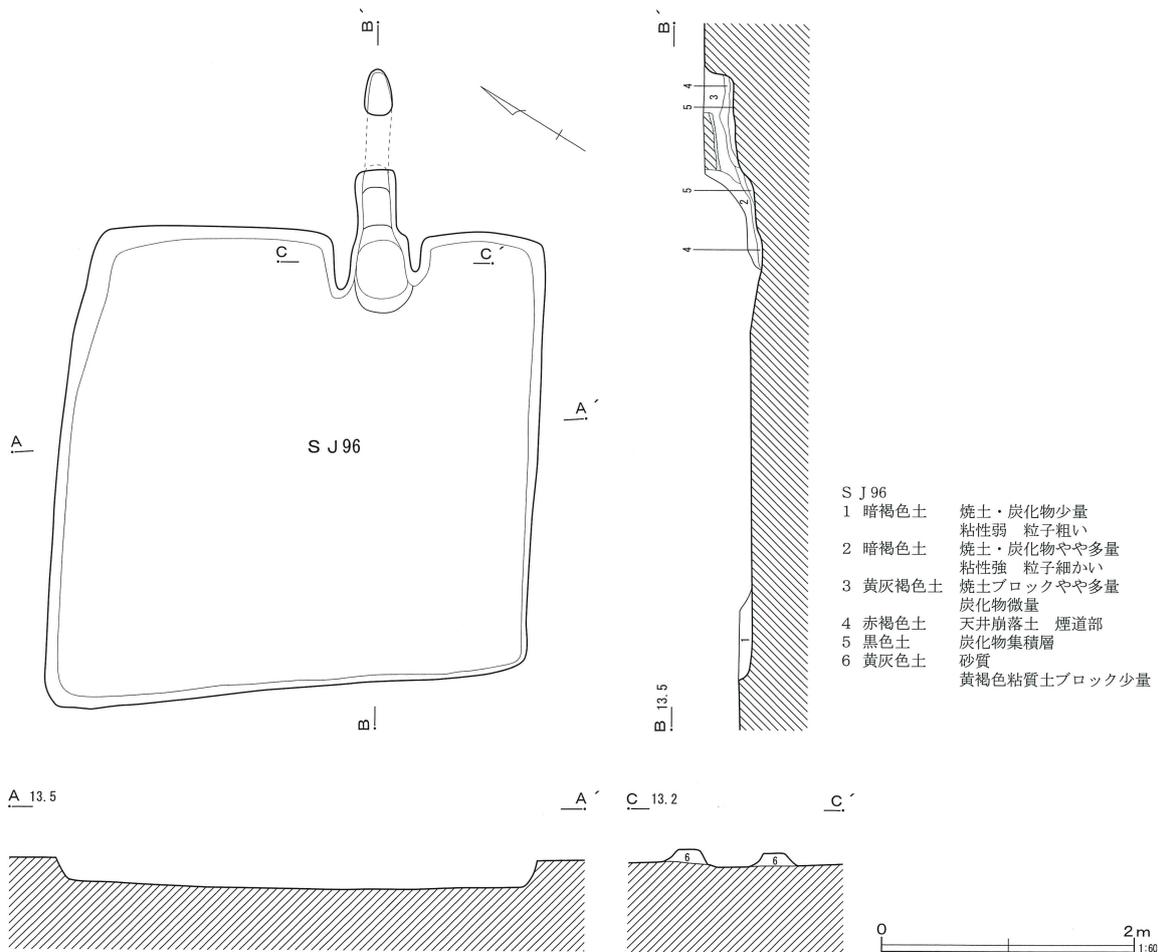
- | | | | | |
|--------|-------|----------------------|--------|-------------------|
| S J 95 | 1 褐色土 | シルト質 焼土ブロック微量 | 5 黄褐色土 | シルト質 焼土ブロック・炭化物少量 |
| | 2 黒色土 | 炭化物集積層 焼土ブロック多量 土器多量 | 6 赤褐色土 | 焼土集積層 (天井崩落土) |
| | 3 褐色土 | 焼土ブロック少量 | 7 灰色土 | 灰集積層 |
| | 4 褐色土 | 炭化物少量 | 8 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 下位に薄く灰堆積 |

0 2m 1:60

第22図 第95号住居跡



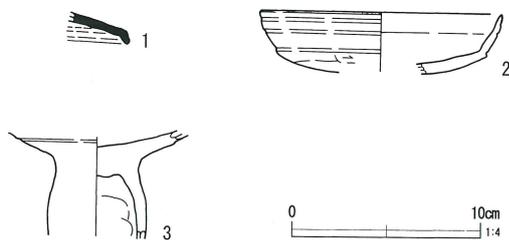
第23図 第95号住居跡出土遺物



第24図 第96号住居跡

第5表 第96号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	残存(%)	タイプ	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	蓋	—	1.5	—	5.4	5	太田か		普通	灰白		
2	土師器	坏	(15.8)	3.2	—	22.7	10	埼玉北		普通	橙		
3	土師器	高坏	—	5.6	—	121.5	20	埼玉北	雲、角	普通	にぶい黄橙		



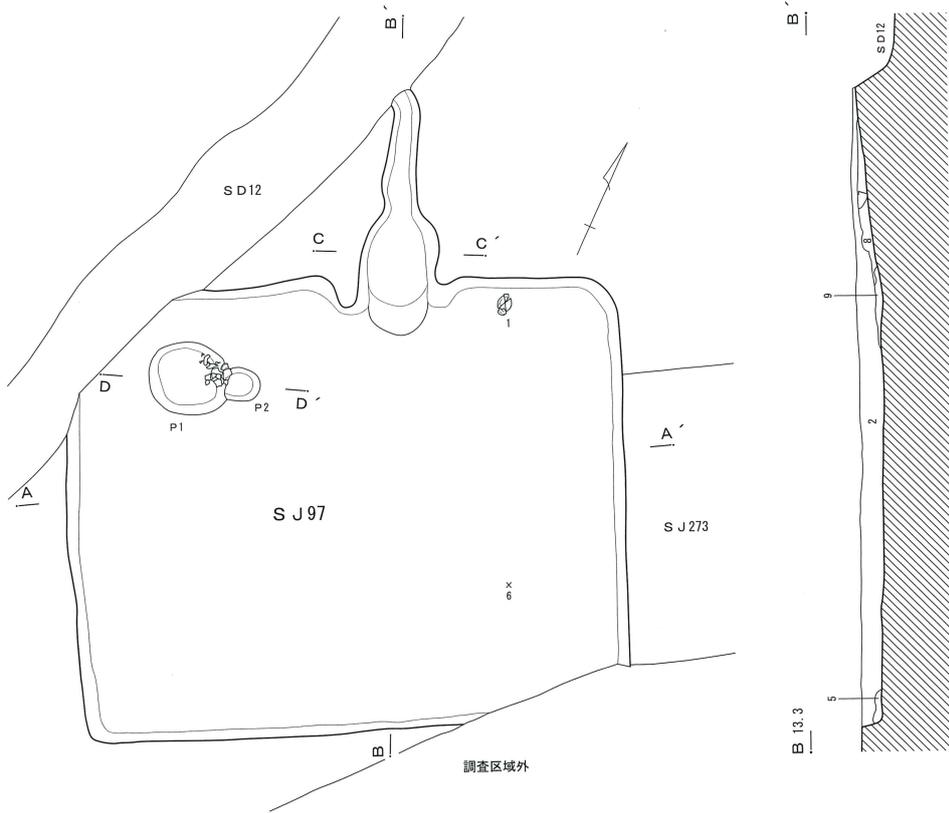
第25図 第96号住居跡出土遺物

調査区南東側、I-5・6グリッドに位置する。第133・134・138・151・273号住居跡、第11・12号溝跡と重複し、新旧関係は溝跡よりも古く、いずれの住居跡よりも新しい。北西コーナーおよびカマド

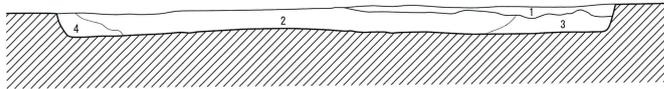
煙道部を第12号溝跡に壊されているほか、住居跡南東が調査区域外におよび未検出である。

平面形は東西に長い長方形で、主軸方向はN-25°-Wである。規模は東西軸4.37m、南北軸3.53m、確認面からの深さは0.18mである。

カマドは北壁やや東寄りに位置し、方位はN-22°-Wで住居跡本体に対してやや斜に設けられる。袖部は両側がわずかに確認された。壁からの残存規模は左袖30cm、右袖24cmである。燃焼部は北壁を大きく切り込み、底面は床面よりも5cmほど低く掘り窪められ、灰が厚く集積する。煙道部底面とは段差

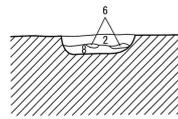


A 13.3

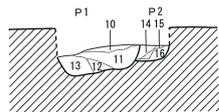


A'

C 13.3



D 13.0



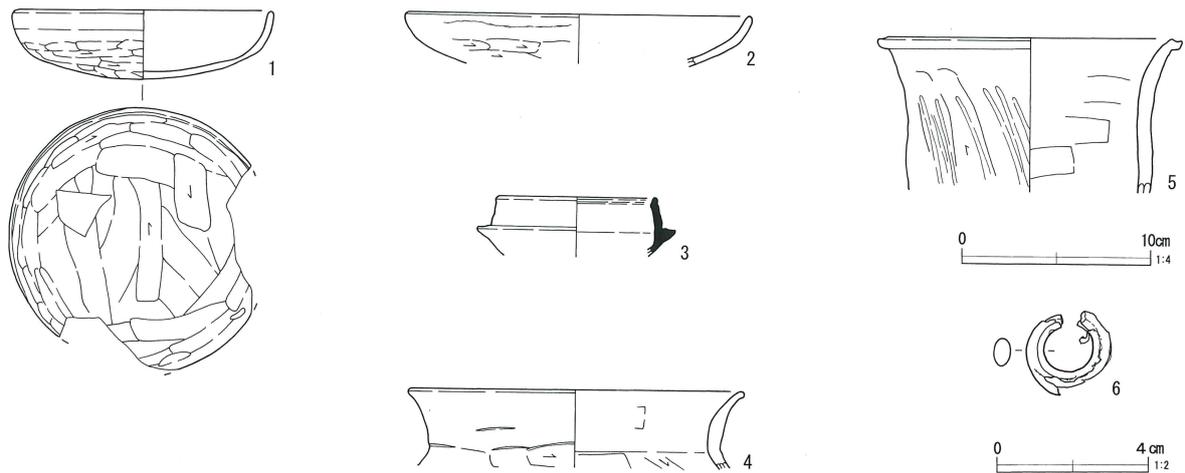
S J 97

- 1 褐色土 暗灰色土ブロックやや多量 炭化物少量 酸化鉄多量
- 2 暗灰色土 褐色土・オリブ黄色土・褐色土ブロック少量
焼土・炭化物ブロック・酸化鉄少量
- 3 暗灰色土 褐色土ブロック少量 炭化物微量 酸化鉄少量
- 4 褐色土 暗灰色土・灰色土少量 炭化物少量
- 5 青灰色土 砂質 炭化物ブロック多量 焼土ブロック少量
- 6 赤色土 焼土集積層
- 7 暗灰色土 砂質 酸化鉄多量
- 8 灰色土 灰集積層 焼土ブロック少量

- 9 灰黄色土 灰集積層 炭化物・焼土ブロック多量
- 10 暗灰褐色土 炭化物少量 しまり強
- 11 暗灰褐色土 砂質 炭化物粒子多量
- 12 明灰褐色土 炭化物粒子多量
- 13 暗灰褐色土 炭化物少量
- 14 青灰褐色土 砂質 炭化物粒子少量
- 15 青灰褐色土 炭化物粒子多量
- 16 暗灰褐色土 炭化物微量 しまり強



第26図 第97号住居跡



第27図 第97号住居跡出土遺物

第6表 第97号住居跡出土遺物観察表 (第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	残存(%)	タイプ	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	13.5	3.6	—	103.6	45	埼北		普通	橙		
2	土師器	坏	(18.0)	2.7	—	43.1	15	埼北	雲、角	普通	灰黄	掘り方	
3	須恵器	坏	(8.2)	3.2	—	13.3	10			普通	灰		
4	土師器	甕	17.6	4.1	—	179.2	5	埼北		普通	にぶい橙		
5	土師器	甌か	(16.1)	8.3	—	115.4	5	栃南	雲、針	普通	にぶい黄褐		
6	鉄製品	耳環	径2.2厚0.70×0.45重6.9残100									鉄地銀張か	234-2

を持たずに移行し、煙道部は外側に向かって8°の角度で上昇する。

燃焼部の規模は、奥行き100cm、幅50cm、煙道部は残存規模で、長さ105cm、幅26cmである。

カマド以外の施設としては、ピットが4基確認されている。いずれも床面で検出できず、10~20cmほど掘り下げた高さで確認した。P1とP2は重複を見せ、P1がP2を切っている。平面形および規模は、P1は円形で62×57cm、床面からの深さ20cm、P2は円形で27×25cm、床面からの深さ13cm、P3は楕円形で長径94×短径67cm、床面からの深さ7cm、P4は円形で55×53cm、床面からの深さは5cmである。

遺物は、床面や覆土、掘り方などから、土師器坏・甕、須恵器坏などのほか、耳環、鉄滓などが出土している。1は土師器坏でカマド脇の床面直上で出土している。6は耳環で覆土中から出土している。

時期は、出土遺物より8世紀第Ⅲ四半期に位置づけられる。

第98号住居跡 (第28・29図)

調査区北西部、D-2グリッドに位置し、流路跡第二次堆積層中に掘り込まれる。周辺の地山は褐色粗粒砂層であった。住居跡本体は調査区域外におよび、カマド煙道部のみを検出した。

煙道部は東側を向き、方位はN-85°-Eである。煙道部の規模は、残存する範囲で145cm、底面は外側へ5°の角度で上昇し、先端でやや傾斜がきつくなる。底面には薄く炭化物が集積する。

遺物は、下総地域に見られるヘルメット型の土師器坏の小破片が1点出土している。時期は6世紀第Ⅰ四半期に位置づけられるが、流路跡第二次堆積層に掘り込まれていることから、1は混入であろう。住居跡の時期は、流路跡が完全に埋まった6世紀後半以降と思われる。

第101号住居跡 (第30・31図)

調査区東部、F・G-7グリッドに位置する。第251・255号住居跡と重複し、新旧関係は両住居跡よりも新しい。